

岡遺跡(第1・2次)発掘調査報告

～三重県津市白山町二本木～

2024（令和6）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は三重県津市白山町二本木に所在する岡遺跡（第1・2次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は、県道二本木御衣田線道路改良事業に伴い実施した。
- 3 発掘調査の費用は三重県県土整備部が全額負担した。
- 4 調査の体制等は以下の通りである。
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課
なお、調査における詳細については、「I 前言」に記載したとおりである。
- 5 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が行い、本書の執筆は以下のとおりで、文末にも記載した。刊行にあたり一部補筆している。
I：土橋明梨紗・萩原義彦・原田恵理子 II・III：土橋明梨紗 IV：株式会社バリノ・サーヴェイ
V：土橋明梨紗 遺物写真撮影：土橋明梨紗・田中久生・中村法道
- 6 発掘調査にあたっては、地元の方々をはじめ、津市教育委員会、津市大三自治協議会からご教示・ご協力を頂いた。
- 7 当発掘調査の記録および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

〔地図類〕

- 1 本書で使用した地図は、国土院発行「佐田」「津西部」「二本木」「大仰」（1/25,000）および三重県共有デジタル地図（数値地形図2500（道路縁1000））を使用し、調製したものである。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している。（承認番号：令和5年4月6日付 三総合地1号）
- 2 当地は平面座標系第IV系に属しており、本書での図の方位は座標北を使用している。なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
- 3 土層および遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（30版）』（1967年初版）による。
- 4 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。
SA：柱列 SD：溝 SE：井戸 SF：焼成痕跡 SK：土坑 P：ピット・柱穴
- 5 本書では、以下のように遺物の表記漢字について統一している。
碗・琬・琿 → 碗 坏 → 杯
- 6 遺構一覧表における遺構番号は第2次調査のみ先頭を2から始め、次に調査区の1～5を、各調査区において001から付している。
- 7 地区名については、第1次調査を含めた地区割である。
- 8 遺物観察表は、各遺物実測図の番号に対応する。これは、器種・材質如何を問わず通し番号である。ただし、これは掲載した実測個体のみであり、実測図を作成できない破片には、番号を振っていない。従って、この番号の遺物が全てではない。
- 9 実測番号は、実測をおこなった際の番号である。出だしの3桁は用紙番号で、後ろ側の2桁は用紙内での実測した順序の番号である。
- 10 計測値について記載した口径・器高・その他は、それぞれ最大値ないし接地面をとっている。また、「—」は、計測不能を示している。遺物観察表内で、遺物によっては長さ・短さ・厚さ・高台径・底径を表す場合がある。
- 11 調整・技法については、遺物製作時になされていることを記載し、順序を示すものではない。
- 12 素地および胎土については、粗密を表記する。
- 13 残存度合については、その部位の12分割した際の残存度を示した。

〔写真図版〕

- 1 写真図版は、出土遺構・出土遺物ごとにまとめている。
- 2 出土遺物実測図の報告番号と遺物写真番号は対応している。
- 3 遺物の写真図版の個々の縮尺は、不同である。

本文目次

I	前言	1
	1 調査に至る経緯と経過	1
	2 調査の方法	2
II	位置と環境	4
	1 位置	4
	2 歴史的環境	4
III	調査の成果	7
	1 調査概要・基本層序	7
	2 遺構	7
	3 遺物	20
IV	自然科学分析	45
	1 岡遺跡の放射性炭素年代測定	45
V	まとめ	49
	1 遺構	49
	2 遺物	49
	3 結語	49

挿図目次

第1図	調査区位置図及び地区設定図	3	SE24001平面図・断面図	17	
第2図	遺跡位置図	5	第13図	第2次調査5区平面図、土層断面図	18
第3図	第1次調査平面図、下層確認TR1平面図 ・土層断面図	8	第14図	範囲確認調査出土遺物実測図	21
第4図	第1次調査土層断面図、 SK10003～10005実測図	9	第15図	第1次調査出土遺物実測図1	21
第5図	第2次調査1区平面図	10	第16図	第1次調査出土遺物実測図2	21
第6図	第2次調査1区土層断面図、 トレンチ土層断面図	11	第17図	第1次調査出土遺物実測図3	22
第7図	第2次調査2区平面図	12	第18図	第1次調査出土遺物実測図4	23
第8図	第2次調査2区土層断面図、 トレンチ土層断面図	13	第19図	第1次調査出土遺物実測図5	24
第9図	第2次調査3区平面図	14	第20図	第1次調査出土遺物実測図6	25
第10図	第2次調査3区土層断面図、 トレンチ土層断面図	15	第21図	第1次調査出土遺物実測図7	26
第11図	第2次調査3区 SA23004平面図・断面図	16	第22図	第1次調査出土遺物実測図8	27
第12図	第2次調査4区平面図、土層断面図、		第23図	第1次調査出土遺物実測図9	28
			第24図	第1次調査出土遺物実測図10	29
			第25図	第1次調査出土遺物実測図11	30
			第26図	第1次調査出土遺物実測図12	31
			第27図	第2次調査出土遺物実測図	32
			第28図	暦年較正結果	47
			第29図	分析試料	48

表目次

第1表	遺構一覧表	19	第9表	出土遺物観察表8	40
第2表	出土遺物観察表1	33	第10表	出土遺物観察表9	41
第3表	出土遺物観察表2	34	第11表	出土遺物観察表10	42
第4表	出土遺物観察表3	35	第12表	出土遺物観察表11	43
第5表	出土遺物観察表4	36	第13表	出土遺物観察表12	44
第6表	出土遺物観察表5	37	第14表	分析試料一覧結果	45
第7表	出土遺物観察表6	38	第15表	放射性炭素年代測定結果	46
第8表	出土遺物観察表7	39			

写真図版目次

写真図版 1	第 1 次調査調査前状況、 第 1 次調査調査前状況 …………… 51	写真図版11	第 2 次調査 5 区調査区全景、 第 2 次調査 1 区SA21006…………… 61
写真図版 2	第 1 次調査調査区全景、 第 1 次調査調査区全景 …………… 52	写真図版12	第 2 次調査 3 区SD23001調査状況、 第 2 次調査 3 区調査区南掘削状況、 第 2 次調査 3 区SD23001遺物出土状 況 …………… 62
写真図版 3	第 1 次調査下層確認状況、 第 1 次調査下層確認状況 …………… 53	写真図版13	第 2 次調査 4 区SE24001、 第 2 次調査 5 区SK25001…………… 63
写真図版 4	第 1 次調査SK10001、 第 1 次調査SF10002…………… 54	写真図版14	出土遺物 1 …………… 64
写真図版 5	第 1 次調査SK10003、 第 1 次調査SK10004検出状況…………… 55	写真図版15	出土遺物 2 …………… 65
写真図版 6	第 1 次調査SK10004調査状況、 第 1 次調査SK10005検出状況…………… 56	写真図版16	出土遺物 3 …………… 66
写真図版 7	第 1 次調査SK10005完掘状況、 第 2 次調査1区調査前状況…………… 57	写真図版17	出土遺物 4 …………… 67
写真図版 8	第 2 次調査 2 区調査前状況、 第 2 次調査 3 区調査前状況 …………… 58	写真図版18	出土遺物 5 …………… 68
写真図版 9	第 2 次調査 1 区調査区全景、 第 2 次調査 2 区調査区全景 …………… 59	写真図版19	出土遺物 6 …………… 69
写真図版10	第 2 次調査 3 区調査区全景、 第 2 次調査 4 区調査区全景、 第 2 次調査 4 区調査区全景 …………… 60	写真図版20	出土遺物 7 …………… 70
		写真図版21	出土遺物 8 …………… 71
		写真図版22	出土遺物 9 …………… 72
		写真図版23	出土遺物10 …………… 73
		写真図版24	出土遺物11 …………… 74
		写真図版25	出土遺物12 …………… 75

I 前 言

1 調査に至る経緯と経過

(1) 調査に至る経緯

三重県埋蔵文化財センターは、毎年国及び県に関する各種公共事業について、事業予定地内の埋蔵文化財の確認を行い、その保護に努めている。こうした中で、三重県県土整備部道路建設課から一般県道二本木御衣田線の事業計画の照会を受けた。その計画は、国道165号と久居美杉線を結び、津・久居中心部と松阪中心部を移動するために重要な役割を担うものである。三重県中勢地域を南北に縦貫する広域農道（グリーンロード）の延長線上にあたり、大村川に沿って川の西側を南下し、遺跡の南方で東へ曲がり、川を横断して一般県道藤大三停車場線に繋がる延長1.44kmの区間である。照会の結果、予定地内に岡遺跡が所在することが判明した。そのため、令和元年度に範囲確認調査を実施した。その結果、岡遺跡の2,330㎡について発掘調査を実施することとなった。（土橋・原田）

(2) 調査の経過

a 調査経過の概要

岡遺跡全体の面積は約660,000㎡である。計画路線内は田地で、本調査の必要の有無確認のための範囲確認調査は令和元年度に31カ所の調査坑を設けて実施した。その結果、縄文土器や中世の山茶碗が出土したほか、土坑、溝などの遺構を確認した。事業担当課との協議の結果、調査対象地の南側から、令和2年度（岡遺跡第1次調査）に815㎡、令和3年度（岡遺跡第2次調査）に1,515㎡、合計2,330㎡の本発掘調査を実施することとなった。以下に、その概要を記述する。

令和2年度（第1次調査）

調査坑2カ所分に相当する範囲を調査区として、計画路線内の最南部分815㎡の発掘調査を行った。その結果、縄文土器、石器が出土したほか、土坑、焼土坑などの遺構を確認した。そのほか、風倒木痕跡、谷状の浅い落ち込み地形を確認した。

令和3年度（第2次調査）

調査坑13カ所分に相当する範囲を調査区として、

計画路線内に計5カ所の調査区（1～5区）を設定した。その結果、山茶碗、瓦器碗、土師器、鉄滓が出土したほか、素掘り井戸、土坑、柱列などの遺構を確認した。また、第1次調査と同様の谷状の浅い落ち込み地形を確認した。

b 調査の体制

各年度の担当・体制などは、次のとおりである。

令和元年度

・範囲確認調査

担当：中村法道・穂積裕昌（調査研究1課）

期間：令和2年1月14日～1月17日

面積：248㎡

令和2年度

・第1次調査

担当：中村法道・元座範子（調査研究1課）

委託業者：丸文工業株式会社

期間：令和2年4月24日～8月11日

面積：815㎡

令和3年度

・第2次調査

担当：土橋明梨紗・萩原義彦（調査研究1課）

委託業者：株式会社アート

期間：令和3年6月11日～11月26日

面積：1,515㎡

c 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（周知の埋蔵文化財における土木工事等の発掘に関する通知）

・令和元年7月30日付 津建第346号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長宛）

文化財保護法第99条第1項（発掘調査の着手報告）

・令和2年5月12日付 教理第41号

（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長宛）【第1次調査】

・令和3年6月16日付 教理第70号

（三重県埋蔵文化財センター所長から三重県教育委員会教育長宛）【第2次調査】

文化財保護法第100条第2項（文化財の発見・認定

通知)

- ・令和2年8月14日付 教委第12-4414号
(三重県教育委員会教育長から津南警察署長宛)

【第1次調査】

- ・令和3年12月8日付 教委第12-4414号
(三重県教育委員会教育長から津南警察署長宛)

【第2次調査】

調査日誌抄

令和2年【第1次調査】

- 5月15日 表土の重機掘削開始
- 5月29日 重機掘削完了
- 6月1日 地区杭4m設定、ベルトコンベア設置
- 6月2日 包含層掘削開始
- 6月5日 遺構検出(SK10001、B-W15Pit1)
- 6月8日 SK10001掘削終了、B-V14Pit1検出
- 6月9日 SF10002検出、掘削
- 6月15日 SK10003検出、掘削
- 6月16日 SK10003掘削終了
- 6月17日 包含層掘削終了、調査区全景写真撮影
- 6月22日 土層断面図・平面図作成
- 7月10日 下層確認、重機掘削
- 7月15日 下層確認、土層確認精査
- 7月16日 下層確認、写真撮影、SK10004・SK10005実測図作成
- 7月20日 SK10005掘削終了
- 7月21日 SK10004掘削終了
- 7月22日 実測図作成、機材撤収、現地調査終了

令和3年【第2次調査】

- 7月6日 資材搬入
- 7月12日 2区表土、重機掘削開始
- 7月19日 2区北半に地区杭設定
- 7月26日 重機掘削(80m地点まで)、遺構検出開始、ベルトコンベア設置
- 8月2日 遺構掘削開始、実測図ポイント設定
- 8月5日 調査区、写真撮影
- 8月6日 実測図作成
- 8月23日 2区80~100m地点の重機掘削開始
- 8月24日 遺構検出
- 8月25日 1区表土、重機掘削開始
- 8月26日 2区調査区内に断割調査
- 8月27日 2区図面作成完了

- 8月30日 1区ベルトコンベア設置
- 8月31日 1区遺構検出開始、SK21001検出
- 9月6日 1区遺構掘削(SK21001、SD21002、Pit群)
- 9月7日 1区調査区内に谷状の落ち込みを確認、複数個所の断割調査開始
- 9月9日 SK21001底でPit4基検出
- 9月10日 写真撮影(全景、遺構など)、実測図作成
- 9月15日 3区表土、重機掘削開始
- 9月21日 1区実測図作成、終了
- 9月29日 3区遺構検出、Pit複数検出
- 10月5日 調査区南半で風倒木痕跡状の堆積確認
- 10月6日 調査区、全景写真撮影
- 10月11日 4・5区表土、重機掘削開始
- 10月12日 3区断割調査
- 10月13日 4区遺構検出
- 10月14日 4区SE24001、SA24002検出
- 10月15日 5区遺構検出、SK25001掘削
- 10月18日 5区調査区全景、写真撮影
- 10月19日 SD23001撮影(遺物出土状況・完掘)
- 10月20日 4区、調査区全景写真撮影、遺構掘削
- 10月21日 3区、遺構検出、Pit群検出、4区実測図作成、5区遺構掘削・実測図作成
- 10月27日 3区、調査区全景写真撮影、5区現地調査終了
- 10月28日 4区SE24001断割調査
- 11月2日 機材搬出
- 11月4日 3・4区実測図完了、現地調査終了

d 普及公開

発掘調査が複数カ所に分かれており、終了した調査区から順次引き渡し、工事に入っていったため、現地説明会は実施していない。代替として、三重県埋蔵文化財センターホームページやX、YouTubeでの遺跡情報の公開を行った。(土橋・萩原)

2 調査の方法

(1) 調査区・地区の設定

第1次調査区は1カ所、第2次調査区は1~5区の5カ所に分かれている。調査を実施した順で調査区の設定をしており、第1次調査、第2次調査1~5区は、南から北へ並ぶ形となっている。

地区は、第1次・第2次を含めた調査対象地を、

大地区と小地区で細分した。大地区は100m四方で南からA～Hまで付している。調査区第2次-1・2区は大地区C・Dより西側にも広がっているため、それぞれ大地区AC・ADとした。さらに、大地区の中を4m四方に細分し、南北方向に北からアルファベット(A～Y)、東西方向に西からアラビア数字(1～25)を振り、アルファベットとアラビア数字を組み合わせて小地区の設定を行っている。

(2) 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面上まで、重機による掘削を行った。その後、人力での遺構検出と掘削を行った。

また、第1次調査においては、地形の形成過程を確認するため、記録・図化作業後に重機による下層確認調査を実施した。

遺構番号は、第1次調査は1～付番していたもの

に10000を加えて、5桁表記としている。第2次調査も5桁表記で、左から調査回数+調査区+遺構番号(3桁)で付番している。但し、Pitについては、小地区でそれぞれ1～付番している。

(3) 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、遺構カードや土層断面図、遺構平面図を適宜作成した。

(4) 出土遺物の整理

出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。それらから実測可能な遺物を選別し、人の手による実測を行った。その後、発掘調査報告書の文章や版下作成等については、各担当により行った。(原田)

II 位置と環境

1 位置

岡遺跡の南に接する大村川は、三重県伊賀市と津市白山町の両市にまたがる青山高原に水源をもつ河川であり、雲出川であり、雲出川の支流の一つである。大村川は青山高原の東麓側、津市白山町側を東へ流れていき、その後、同町二本木亀ヶ広で雲出川本流に合流する。

今回の調査地である岡遺跡は、その雲出川と大村川の侵食により形成された河岸段丘の大村川左岸に立地する縄文時代から近世までの複合遺跡であり、集落遺跡である。

現在、岡遺跡周辺である白山町二本木には戦後の農地改良事業によって形成された水田が広がっている。

2 歴史的環境

縄文時代 岡遺跡(1)周辺に所在する縄文時代の遺跡は、和遅野遺跡(2)、亀ヶ広遺跡(3)、川口北方遺跡(6)などを挙げる事ができる。中でも和遅野遺跡や岩井戸遺跡(9)、関ノ宮遺跡(21、かつて大角遺跡と呼ばれていた地点)では、石鏃をはじめとする多数の石器群が採集されている⁽¹⁾。和遅野遺跡では早期押型文土器をはじめ前期から晩期に至る各時代の土器が知られ、当地を代表する縄文遺跡だったよ

うである。

弥生時代 縄文時代に雲出川へ広がった集住域は、弥生時代にも継続して生活が営まれたとみられている。さらに、水田稲作が拡大するのとあわせ、雲出川本流近くに集落が拡大していく。雲出川南岸に帯状に広がる川口北方遺跡は、縄文時代から継続して人々が生活域としていた遺跡である。ここでは、水田跡こそ見つかってはいないものの、石庖丁やもみ跡のついた弥生土器が出土している。このほか、南岸では、ミドダニ遺跡(14)で縄文時代から継続して集落が存在することが確認されている。また、北岸にも同様に縄文時代から継続して人々が生活していた和遅野遺跡があり、こちらも川口北方遺跡同様に石庖丁が確認されているほか前期土器も採集されている。

また、岡遺跡周辺に目を向ければ、その北側に角穴遺跡(4)と大谷広遺跡(5)がある。この2遺跡は岡遺跡北側に広がる丘陵地に展開する遺跡であり、ここでは弥生時代中期の土器が出土する。

このほか、風呂谷銅鐸出土地(10)では、現物は行方不明ながら、1825(文政8)年に土砂の採取中にⅢ-2式、6区袈裟襷文銅鐸が出土した⁽²⁾。

古墳時代 この頃の白山地域についても、基本的に

は雲出川沿いに人々は集住していたようである。

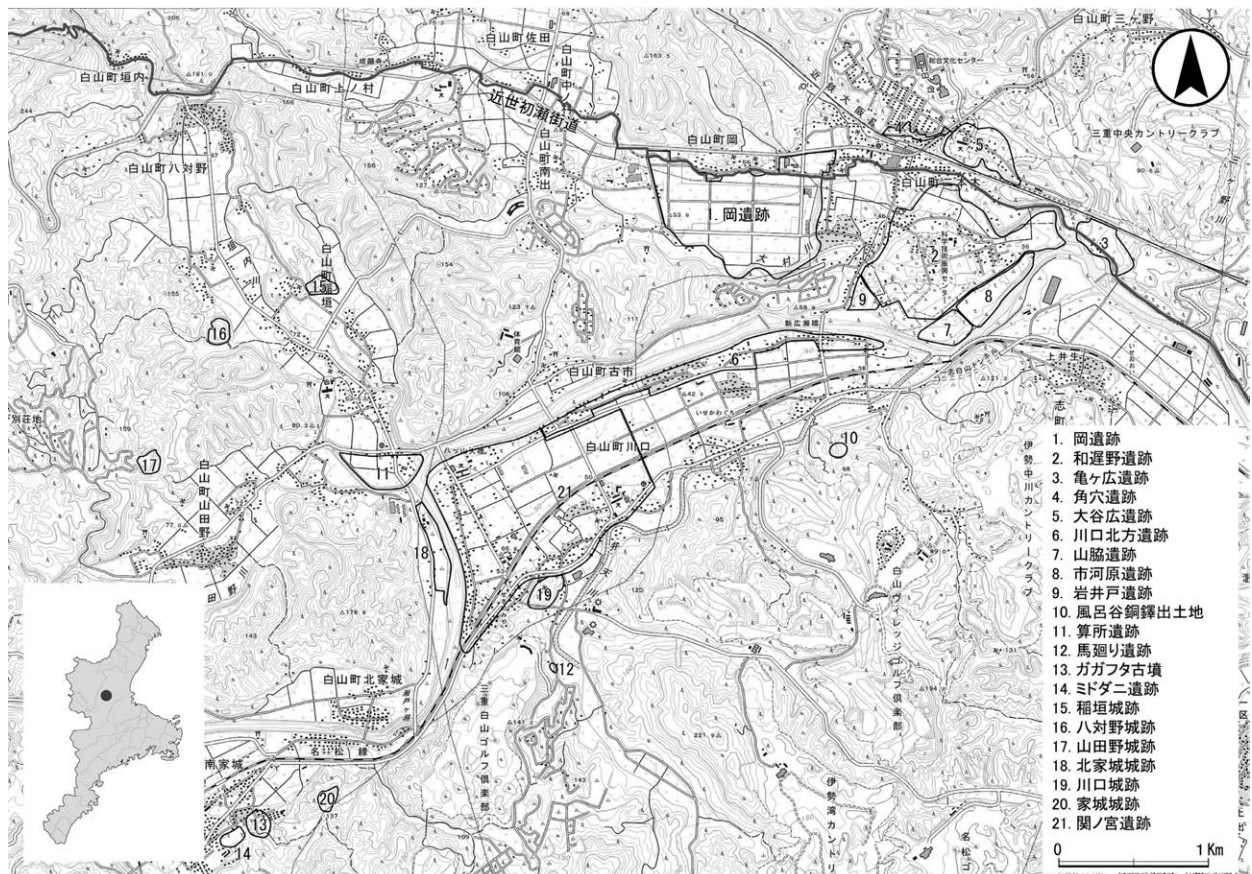
この地域でみつまっている古墳はいずれも円墳で、大村川と雲出川に挟まれた地域にある岩井戸古墳群には、須恵器のほか耳環や玉類が出土した4号墳が知られている。2河川の合流地点にある亀ヶ広古墳群では、3号墳で金環が出土している。雲出川南岸の丘陵地には馬廻り古墳群、ガガフタ古墳群(13)などがある。ガガフタ古墳群は、1号墳、2号墳の2基で構成され、ともに右片袖の横穴石室をもつ。1号墳では、須恵器・鉄鎌・金環・管玉・勾玉が、2号墳では、須恵器・刀剣・刀子・鉄鎌・鉋・鉄斧、金環等が出土した⁽³⁾。

このように、耳環や金環といった金や銀を使用した装身具、鉄製品、さらに西アジアを經由して入手するようなガラス玉などは、この地域が当時の畿内政権の影響下あるいは範囲下であったことを示すものといえよう。

奈良・平安時代 古代律令政権下において、この地域は岩野(多木野)郷の一部、あるいはその大部分にあたると思われる。

古代の白山地域は大和と伊勢を結ぶ重要な地点となっていたようである。都から大和・山辺を抜け、伊賀・名張を通過して阿保を通るルートや、青山峠を越えて大角へ出るルート、奥鹿野を出て大原・小杉から山田野へ出るルートなどがあり、いずれも雲出川沿いに東下していくルートである。そして、大和と伊勢を結ぶ複数のルートは全て雲出川の「川口」の地に集約され、この地が交通の要衝であったことがわかっている。

また、『続日本紀』に「川口関」が設けられたことが記録に残っているほか、現在川口周辺の字名には「関の宮」があるため、この地を「川口関」と比定している。「関の宮」周辺はさらに、「川口頓宮」の比定地になっており、これは740(天平11)年11月2日から12日の11日間、聖武天皇が「川口頓宮」に滞在したという『続日本紀』によるものである。この滞在は筑紫にて藤原広嗣が反乱を起こした(藤原広嗣の乱)ことを受けたものとされている。なお、この地での滞在中に乱が平定されたため「和遅野」で遊獵を行ったと記述されており、和遅野遺跡周辺



第2図 遺跡位置図(1:50,000) [国土地理院地図「二本木」「大仰」1:25,000より]

がこの遊獵地として比定されている⁽⁴⁾。

古代からの交通の要衝として重要な地点であった当地域には仏教も早くから流入しており、川口北方遺跡周辺では、白鳳期の重圈文軒丸瓦がみつまっているほか、一志郡まで範囲を広げれば、白鳳期の寺院が複数建立されていたようである。

このように古墳時代終末期から奈良時代にかけて、交通の要衝として栄えていた当地域だが、平安時代に都が大和から山城へ遷ると変化が生じることとなった。都の場所が変わったことにより、都と神宮の間の交通路が変化したため、川口関の重要度が低下していったのである。886(仁和2)年には鈴鹿越のルートである阿須波道が開通し、都と神宮を結ぶ公式な道路となった。しかしながら、川口関を通るルートが直ちに廃されたのではなかったようで、このルートは天皇の譲位や崩御に際して、齋王が解任されて帰京するために使用するルートとして存続していた。この「川口関」がいつごろ廃絶したのかについては、関所の痕跡が調査によって明らかになっていないため、判然としないが、少なくとも南北朝の終わりごろには完全に廃絶したようである。

中世から近世 平安時代後半以降、この地域は荘園制度に取り込まれていった。大江氏、常陸氏といった有力豪族や、熊野三山、万寿禅寺などの社寺の私領として数個の荘園に分かれていた。

室町時代には北畠氏の支配下となり、家城城跡(20)、川口城跡(19)、山田野城跡(17)、八対野城跡(16)、稲垣城跡(15)などの家臣団の居城が作られて

いった。天正期に北畠氏が織田氏によって滅ぼされた後は、当地は織田信包、蒲生氏郷、富田信高などの所領となった。

近世期になると白山地域は藤堂家の所領となった。今回、調査を実施した第2次4区・5区の間を通る初瀬街道は少なくとも中世以降に整備された大和地域と神宮を結ぶ街道であり、この頃に最も栄えたとされる。現在でも初瀬街道沿いには当時の面影を残している箇所が随所にあり、岡遺跡に最も近い宿場であった二本木にはかつての宿場の建物などが残っている。

以上のように、調査地をはじめとする雲出川流域は、縄文時代に人々が集住し始めたことを契機として現在に至るまで人々の生活が絶え間なく営まれた地である。(土橋)

註

- (1) 白山町郷土史編集刊行委員会『三重一志 白山町文化誌』1973年に記述されている。
- (2) 新田剛「銅鐸」『三重県史 資料編 考古1』三重県 2005年に記述されている。
- (3) 小玉道明・新田洋・清水正明「三重県一志郡白山町 ガガフタ古墳群発掘調査報告」『研究紀要 第5号』三重県埋蔵文化財センター 1996年に記述されている。
- (4) 註(1)と同じ。

参考文献

- 白山町郷土史編集刊行委員会『三重一志 白山町文化誌』1973年
白山町教育委員会『和遅野遺跡発掘調査報告』1975年
白山町教育委員会『大角遺跡発掘調査報告』1983年
三重県埋蔵文化財センター『研究紀要 第5号』1996年
白山町教育委員会『川口北方遺跡発掘調査報告書』2001年
三重県『三重県史 資料編 考古1』2005年

Ⅲ 調査の成果

1 調査概要・基本層序

岡遺跡は三重県津市白山町二本木に位置し、大村川が形成する段丘に広がる縄文時代から中世の集落遺跡である。

調査は既設道路の拡幅および延伸部分を対象としたもので、令和元年度に範囲確認調査を実施した。その結果に基づいて令和2・3年度に本発掘調査にあたる第1・2次調査を実施した。調査期間は、範囲確認調査が令和2年1月、第1次調査は令和2年7月から9月、第2次調査は令和3年6月から11月である。本格発掘調査は範囲確認調査で遺構等を確認した箇所を対象としたため、第2次調査区は5カ所に分かれている。発掘調査面積は、約2,330㎡である。

調査区の基本層序は、調査区が6カ所に分かれているため場所によってやや異なる。上から表土（盛土あるいは耕作土・厚さ約0.4～0.8m）、旧耕作土あるいは床土（厚さ約0.1～0.2m）、黒褐色・暗褐色砂質シルト、褐灰色粘性土（古代から中世の遺物包含層・厚さ0.1～0.2m）、明黄褐色シルト・黄色粘土・オリーブ褐色細砂などの遺構検出面であった。なお、遺構を検出できなかった箇所でのこの遺構検出面をさらに掘り下げたところ、明褐色砂礫や川原石を含む暗オリーブ色細砂（自然堆積層）が存在することを確認した。この自然堆積層は大村川が運搬した砂礫と考えられる。

遺構検出面は、調査地が大村川沿いから段丘上に広がっている。その標高は45.5～50.8mとやや幅がある。なお、北に行くにつれてその面が上っていく状況が認められる。

第1次調査では、縄文時代中期から後期に属すると思われる土坑や焼土痕跡のほか、包含層からも多数の縄文土器片と石器が出土した。第2次調査においても同様の結果を想定していたが、縄文土器や石器はほぼ出土せず、平安時代から近世にかけての土器や陶磁器類が出土したほか、井戸や柱列、溝を検出した。このほか、両調査において旧地形とみられる浅い谷状の部分での堆積層を確認した。

2 遺構

(1) 第1次調査(第3～4図)

第1次調査では土坑4基と、焼土痕跡1基を検出している。土坑からはいずれも小片ながら、縄文時代中期から後期ごろの縄文土器が出土している。また、調査区中央に広がる浅い谷状の落ち込みは、縄文時代ごろに旧地形と判断し、遺構には含めずに報告をする。

SK10001 0.57m×0.57mの土坑で、残存深0.34mである。楕円に近い形状といえよう。破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土した。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

SF10002 0.20m×0.31mの楕円状の土坑で、残存深0.07mである。埋土が赤変していたため、焼土痕跡と判断した。出土遺物はないものの、周囲の遺構の状況からみて縄文時代中期から後期に属する遺構と判断した。

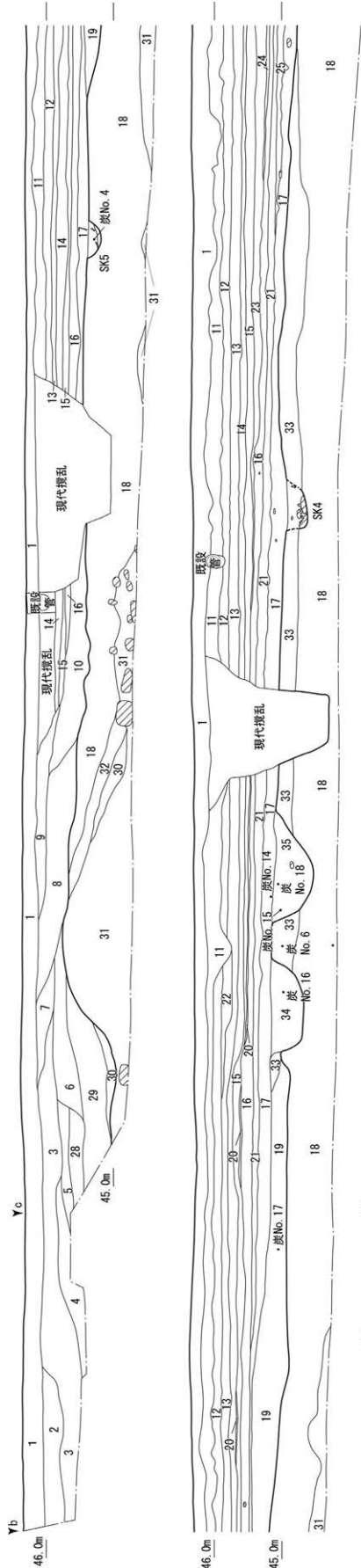
SK10003 1.79m×1.15mの楕円状の土坑で、残存深0.34mである。破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

SK10004 0.77m×0.53mの楕円状の土坑で、残存深0.29mである。いずれも破片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

SK10005 0.59m×0.95mの楕円状の土坑で、残存深0.18mである。いずれも小片ではあるが、縄文時代中期から後期の土器が出土している。所属時期も、出土土器と同じ時期といえよう。

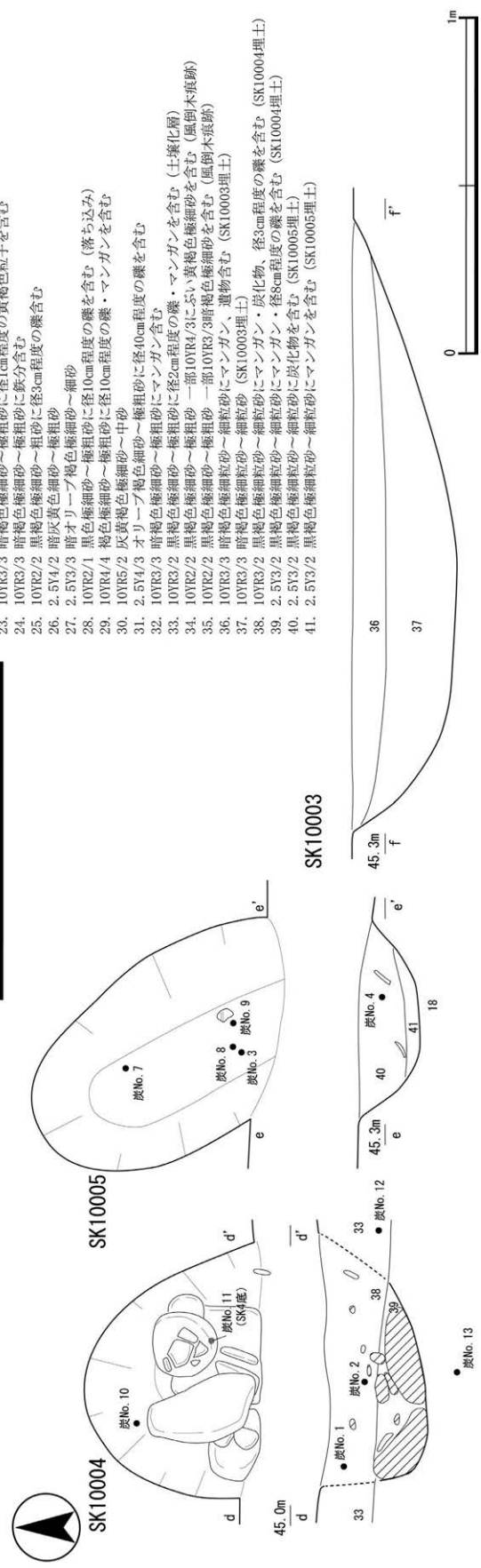
(2) 第2次調査(第5～14図)

第2次調査では、土坑8基、溝2条、井戸1基、柱列3基、このほか3区で多数のピットを検出した。土坑には、弥生土器を小片含むもの、古墳時代の土器を含むものなどがあるものの、多くは中世以降のものである。また、溝、井戸については中世と考えられる。柱列については、遺物の出土がないため軽率に判断するのは避けるべきではあるが、周辺の遺構の状況からいずれも中世に属するものといえ

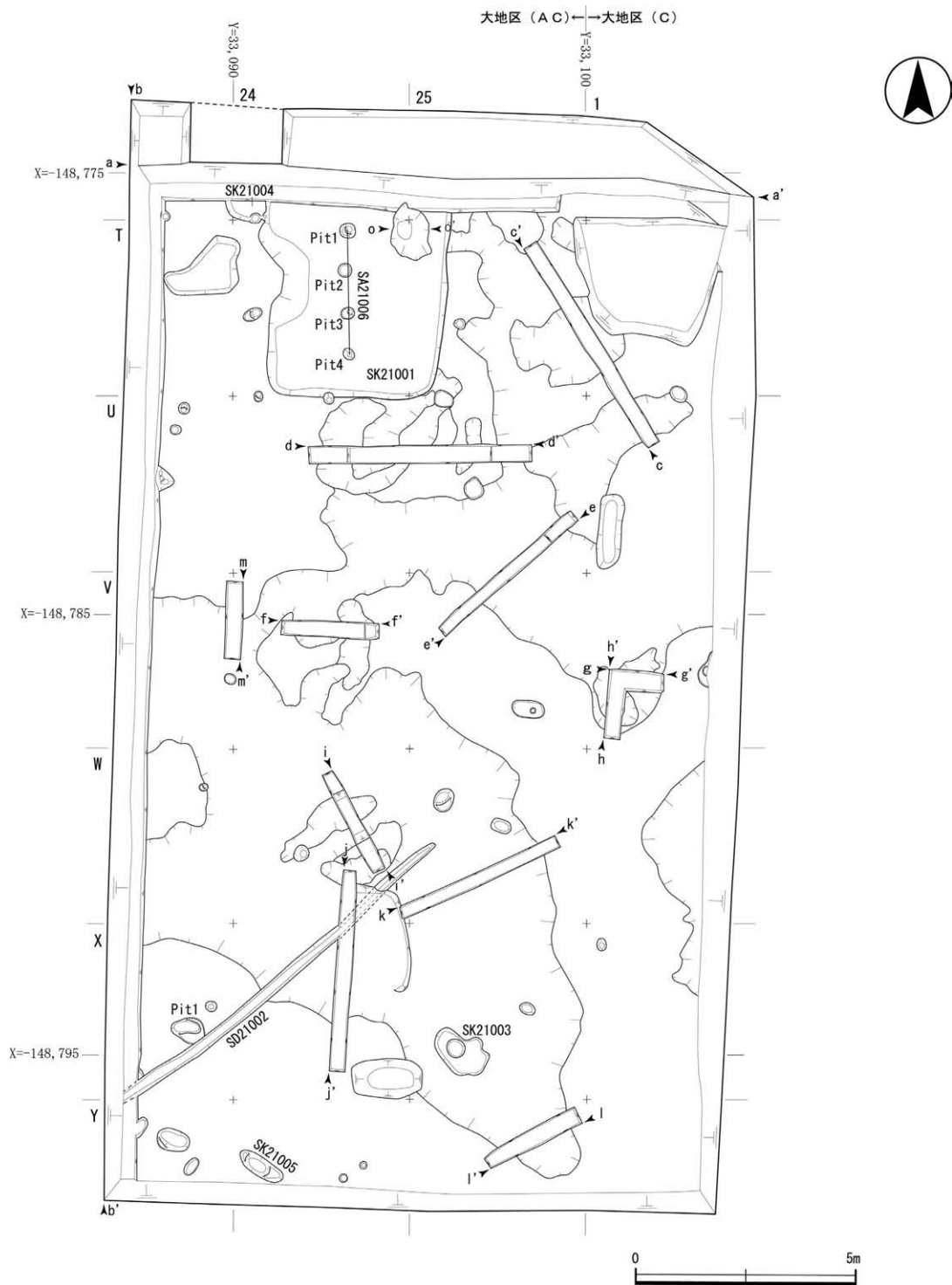


11. 10YR4/4 褐色細砂～極粗砂に径5cm程度の礫を含み10YR2/3黒褐色塊斑状に混じる
12. 2.5Y4/1 黄灰色極細砂～極粗砂
13. 10YR4/2 黄褐色極細砂～極粗砂に径5mm程度の黄褐色粒子を含む
14. 10YR4/2 黄褐色極細砂～極粗砂に径1cm程度の黄褐色粒子を含む (水田耕作土)
15. 10YR3/3 暗褐色細砂～極粗砂に径1cm程度の黄褐色粒子を含む (水田耕作土)
16. 10YR2/3 黒褐色極細砂～極粗砂に径3cm程度の礫・鉄分を含む (水田耕作土)
17. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細砂～粗砂に径30cm程度の礫・マンガンを含む
18. 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細砂～粗砂にマンガン含む (検出面)
19. 10YR2/3 黒褐色細砂～粗砂 (床土)
20. 10YR4/6 褐色細砂～粗砂 (床土)
21. 10YR2/2 黒褐色極細砂～粗砂に径5cm程度の礫・鉄分を含む (水田耕作土)
22. 10YR4/4 褐色極細砂～極粗砂に径5mm程度の黄褐色粒子・黄灰色塊斑状に混じる
23. 10YR3/3 暗褐色極細砂～極粗砂に径1cm程度の黄褐色粒子を含む
24. 10YR3/3 暗褐色極細砂～極粗砂に径1cm程度の黄褐色粒子を含む
25. 10YR2/2 黒褐色極細砂～粗砂に径3cm程度の礫を含む
26. 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂～極粗砂
27. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細砂～細砂
28. 10YR2/1 黒色極細砂～極粗砂に径10cm程度の礫を含む (落ち込み)
29. 10YR4/4 褐色極細砂～極粗砂に径10cm程度の礫・マンガンを含む
30. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂～中砂
31. 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂～極粗砂に径40cm程度の礫を含む
32. 10YR3/3 暗褐色極細砂～極粗砂にマンガン含む
33. 10YR3/2 黒褐色極細砂～極粗砂に径2cm程度の礫・マンガンを含む (土壌化層)
34. 10YR2/2 黒褐色極細砂～極粗砂一部10YR4/3にぶい黄褐色極細砂を含む (風割木痕跡)
35. 10YR2/2 黒褐色極細砂～極粗砂一部10YR3/3暗褐色極細砂を含む (風割木痕跡)
36. 10YR3/3 暗褐色極細砂～細粒砂にマンガン、遺物を含む (SK10003埋土)
37. 10YR3/3 暗褐色極細砂～細粒砂 (SK10003埋土)
38. 10YR2/2 黒褐色極細砂～細粒砂にマンガン・炭化物・径3cm程度の礫を含む (SK10004埋土)
39. 2.5Y3/2 黒褐色極細砂～細粒砂にマンガン・径8cm程度の礫を含む (SK10004埋土)
40. 2.5Y3/2 黒褐色極細砂～細粒砂に炭化物を含む (SK10005埋土)
41. 2.5Y3/2 黒褐色極細砂～細粒砂にマンガンを含む (SK10005埋土)

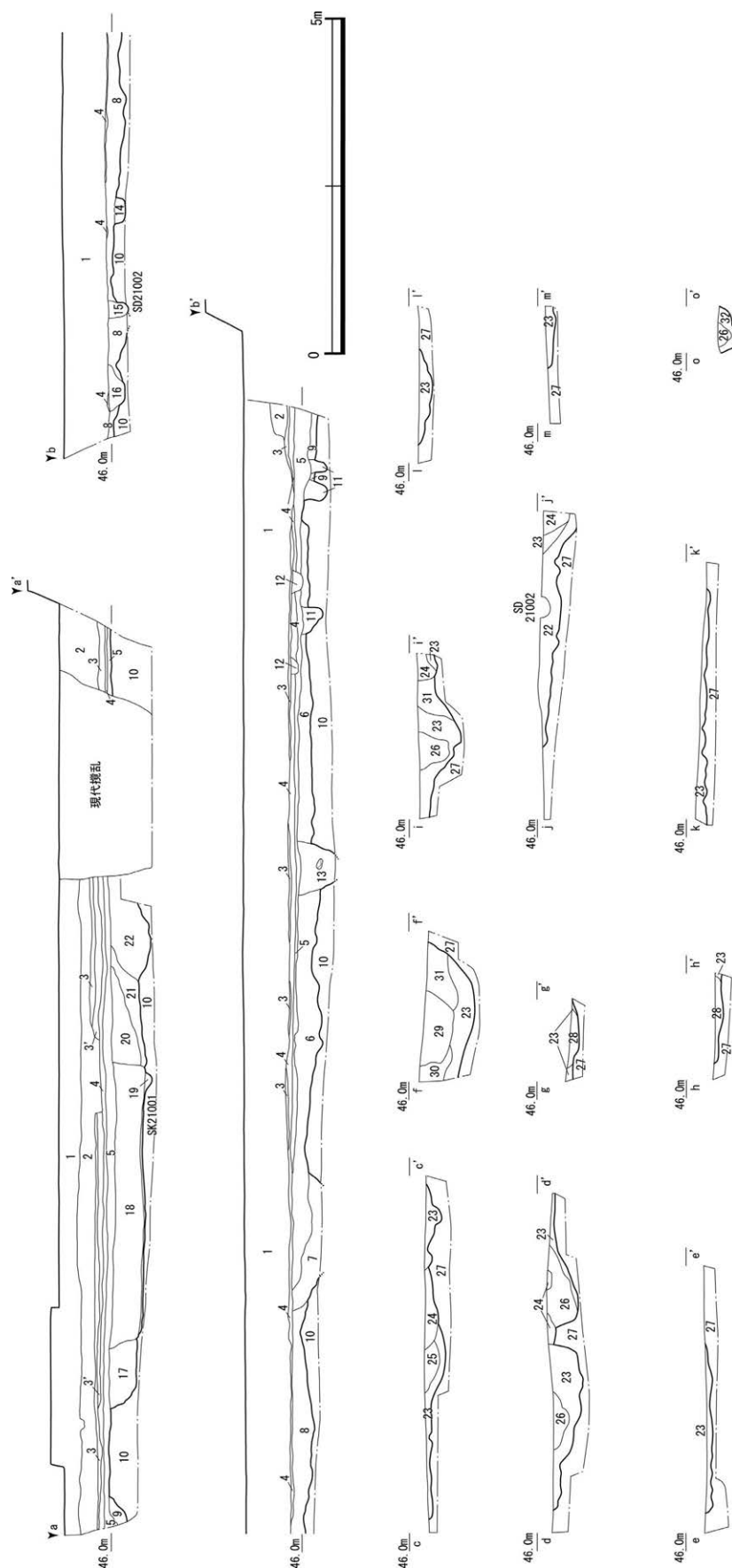
1. 表土
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂
3. 10YR4/4 褐色中砂～極粗砂に径20cm程度の礫を含む (客土)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂に鉄分を含む
5. 10YR3/4 暗褐色細砂～極粗砂に径10cm程度の礫を含む
6. 10YR3/4 暗褐色細砂～極粗砂に径10cm程度の礫を含む
7. 10YR3/2 黒褐色細砂～極粗砂に径12cm程度の礫を含む
8. 10YR2/2 黒褐色極細砂～極粗砂に径2cm程度の礫を含む (落ち込み)
9. 10YR2/3 黒褐色細砂～極粗砂に径2cm程度の礫を含む 表土混じる (落ち込み)
10. 10YR2/1 黒色極細砂～中砂に10YR3/3暗褐色塊斑状に混じる (落ち込み)



第4図 第1次調査土層断面図(1:100)、SK10003～10005東測図(1:20)

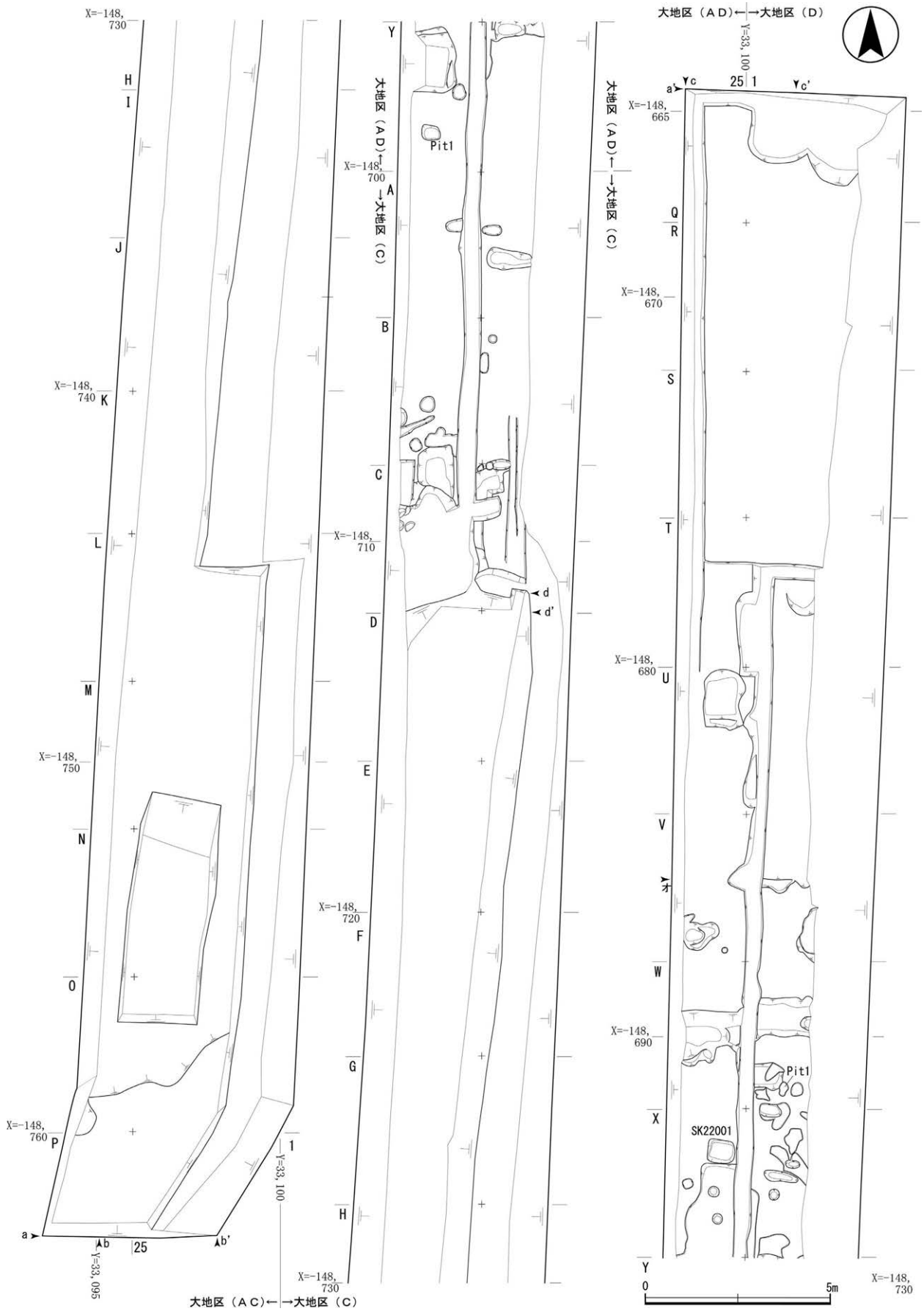


第5図 第2次調査1区平面図(1:150)



第6図 第2次調査1区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100)

- | | |
|---|---|
| <p>1. 10TR7/8 黄褐色シルトに山土塊多量含む(盛土)
 2. 2.SY3/3 暗オリーブ色砂質シルトに山土粒子含む(耕作土)
 3. 2.SY3/2 黒褐色砂質シルト(床土)
 4. 2.SY3/3 暗オリーブ色砂質シルトにマンガン粒子含む(床土)
 5. 10TR3/2 黒褐色砂質シルトに山土塊・鉄分含む(包含層)
 6. 10TR2/2 黒褐色砂質シルトに山土塊含む(落ち込み)
 7. 10TR2/1 黒褐色砂質シルト(落ち込み)
 8. 10TR3/2 暗褐色砂質シルト(落ち込み)
 9. 10TR3/3 暗褐色砂質シルトに山土塊含む(遺物なし)
 10. 2.SY4/4 オリーブ褐色細砂に黒色粒子含む(検出面)
 11. 2.SY3/2 黒褐色砂質シルトに山土塊・10層混じる(遺物なし)
 12. 2.SY4/2 暗灰黄色砂質シルトに鉄分粒子含む(遺物なし)
 13. 2.SY3/3 暗オリーブ色砂質シルトに山土塊含む(遺物なし)
 14. 10TR3/3 暗褐色砂質シルト(遺物なし)
 15. 10TR1.7/1 黒色砂質シルト(SI21002埋土)
 16. 10TR2/2 黒褐色砂質シルト(遺物なし)</p> | <p>17. 10TR2/3 黒褐色砂質シルト(SK21004埋土・遺物なし)
 18. 2.SY3/2 黒褐色砂質シルトに山土(SK21001埋土)
 19. 10TR3/4 暗褐色細砂に鉄分が多量沈着(SK21001埋土)
 20. 10TR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトに山土塊含む(落ち込み)
 21. 10TR2/2 黒褐色砂質シルトに山土塊含む(落ち込み)
 22. 10TR1.7/1 黒褐色砂質シルトに山土塊含む(落ち込み)
 23. 10TR2/3 黒褐色砂質シルト(落ち込み埋土)
 24. 2.SY4/6 オリーブ褐色細砂(風倒木痕跡)
 25. 2.SY5/4 黄褐色細砂(風倒木痕跡)
 26. 10TR3/3 暗褐色砂質シルトに炭化物含む(風倒木痕跡)
 27. 2.SY4/4 オリーブ褐色細砂(検出面)
 28. 7.SYR1.7/1 黒色砂質シルト(落ち込み)
 29. 10TR4/3 黒褐色砂質シルト(落ち込み)
 30. 10TR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト(風倒木痕跡)
 31. 2.SY4/6 オリーブ褐色砂に礫状の山土塊含む(風倒木痕跡)
 32. 10TR2/2 黒褐色砂質シルトに炭化物含む(風倒木痕跡)</p> |
|---|---|



第7图 第2次調査2区平面图(1:150)



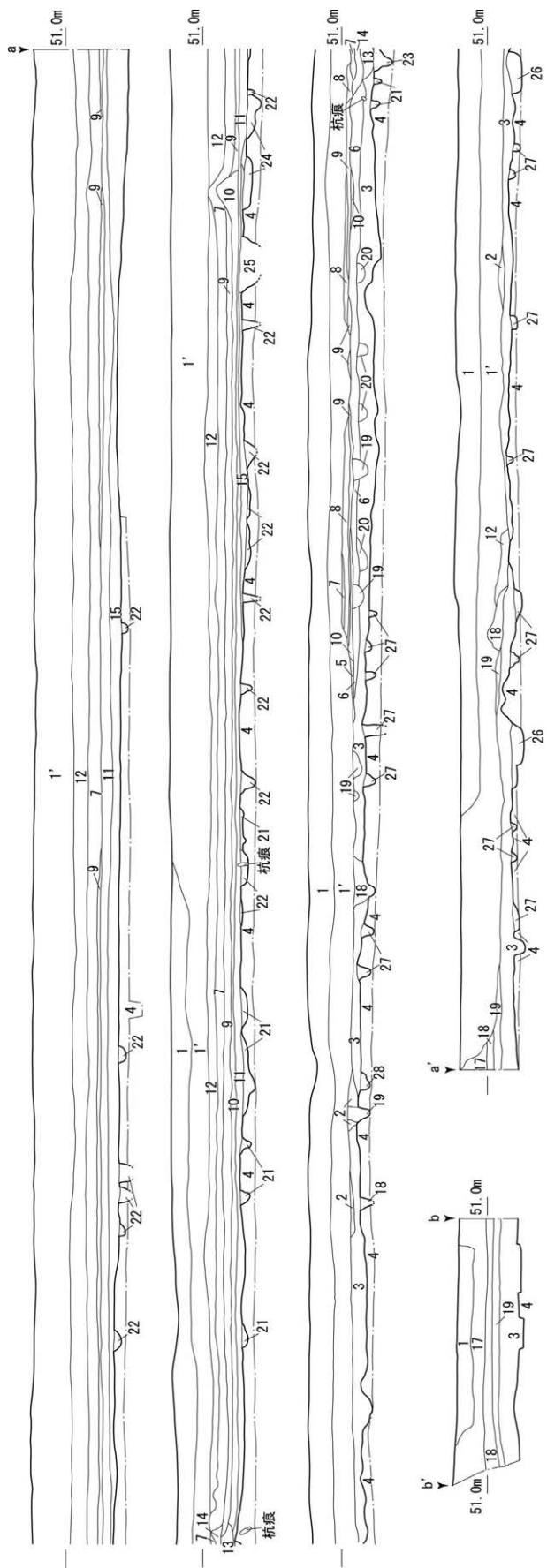
- 7. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂に径6mm程度の山土粒子多量含む (検出面)
- 8. 10YR2/1 黒色砂質シルトに橙褐色シルト塊含む (遺構埋土)
- 9. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト
- 10. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (裏込めおよび掘方埋土)
- 11. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルトに灰色砂質シルト塊含む (竪乱)
- 12. 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂。(暗葉掘方)
- 13. 5Y4/3 暗オリーブ色細砂に10cm大の河原石を含む (検出面)

- 1. 7.5YR2/3 極暗褐色砂質シルトに橙山土塊を多量含む (盛土)
- 2. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト (耕作土)
- 3. 10YR2/2 黒褐色シルト (床土)
- 4. 10YR2/2 黒褐色砂質シルトに径4mm程度の橙山土粒子、
古代から近世の遺物、ビニール含む (竪乱)
- 5. 5Y5/2 灰オリーブ色粗砂に山土粒子多量含む (検出面)
- 5' 2.5Y6/2 灰黄色粗砂に山土粒子多量含む (検出面)
- 6. 10YR6/6 明黄褐色シルト質細砂に山土塊・小礫含む (検出面)

第8図 第2次調査2区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100)

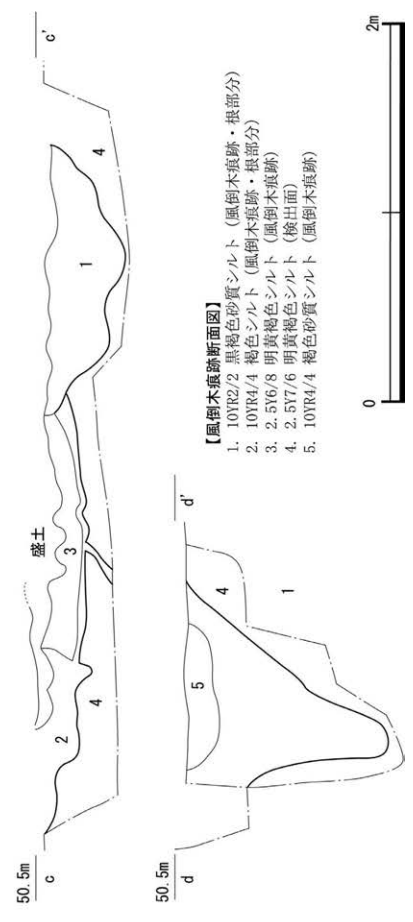


第9图 第2次調査3区平面图(1:150)



- 1. 10VR7/8 黄褐色シルトに山土塊を多量含む (盛土)
- 1'. 10YR1.7/1 黒色砂質シルトに径5cm程度の山土塊、植物根を含む (盛土)
- 2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト (耕作土)
- 3. 10VR3/3 暗褐色砂質シルトに遺物微塵を含む (包含層)
- 4. 2.5Y6/8 明黄褐色シルト、5Y7/2 灰白色シルト (検出面)
- 5. 10VR4/1 褐色シルト (床土および現代攪乱)
- 6. 10VR3/2 黒褐色砂質シルト (包含層)
- 7. 10VR4/1 褐色砂質シルト (耕作土)
- 8. 10VR4/2 灰黄褐色シルト (床土)
- 9. 2.5Y3/2 黒褐色シルトに鉄分多量沈着 (床土)
- 10. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (床土)
- 11. 2.5Y4/2 暗黄灰色シルト (床土)
- 12. 5Y3/2 オリーブ黒色シルトに山土塊を含む (耕作土あるいは盛土)
- 13. 2.5Y4/2 暗黄灰色シルト (床土)
- 14. 5Y4/1 灰色シルト (床土)
- 15. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (床土および包含層)
- 16. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルトに鉄分・マンガンを含む (包含層)
- 17. 10VR4/4 褐色砂質シルト
- 18. 10VR3/3 暗褐色砂質シルト
- 19. 10VR3/2 黒褐色砂質シルト
- 20. 10VR3/3 暗褐色シルト
- 21. 2.5Y4/2 灰黄褐色シルト (遺構埋土)
- 22. 10VR3/3 暗褐色シルト (遺構埋土)
- 23. 10VR3/2 黒褐色シルトに検出面の土塊を含む (遺構埋土)
- 24. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト (土坑埋土)
- 25. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト (SD23001埋土)
- 26. 10VR3/3 暗褐色砂質シルト (遺構埋土)
- 27. 10VR3/3 暗褐色砂質シルトに粒状に検出面の土を含む (遺構埋土)

【風倒木痕跡断面図】



- 【風倒木痕跡断面図】
- 1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト (風倒木痕跡・根部分)
 - 2. 10YR4/4 褐色シルト (風倒木痕跡・根部分)
 - 3. 2.5Y6/8 明黄褐色シルト (検出面)
 - 4. 2.5Y7/6 明黄褐色シルト (検出面)
 - 5. 10YR4/4 褐色砂質シルト (風倒木痕跡)

第10図 第2次調査3区土層断面図、トレンチ土層断面図(1:100、1:40)

よう。

第1次調査で検出した浅い谷状の落ち込みについては、1区において確認した。なお、その落ち込みからの遺物の出土は確認できなかった。この落ち込みより上の土層には複数の風倒木痕跡が含まれていると判断した。その部分については、部分的にサブトレンチを入れ、断面の観察と記録を行った。(第5・6図参照)3区でも風倒木痕跡を検出したため、断面観察と記録を行った(第9・10図を参照)。

SK21001 調査区北半で検出した4.37m以上×4.37mの方形の土坑である。北は調査区外へ延びる。残存深0.37mである。土師器や陶器類が出土している。13世紀前半ごろに属する遺構である。底部まで掘削したところSA21006を構成する柱穴を確認した。

SD21002 長さ9.15m以上、幅0.29mの斜行溝で、残存深0.18mである。溝は北東側に向かって浅くなり、調査区内でその端部を検出したが、南西側の端部は、調査区外へ延びる。埋土の状況からみて、1区で最も新しい時期の遺構といえよう。柱穴との重複がみられた。出土した土師器から、所属時期は中世以降といえよう。

SK21003 1.34m×0.97mの土坑で、残存深0.15mである。小片ながら、弥生土器壺が出土した。

SK21004 0.92m×0.52mの土坑で、残存深0.18mである。12世紀前半の土師器甕が出土した。

SK21005 1.10m×0.41mの土坑で、残存深0.21mである。弥生土器壺が出土した。

SA21006 SK21001底部で確認した柱列である。南北3間、3.10mの部分を検出した。柱穴の規模は平均すると、0.31mの円形で、残存深0.18mである。遺物の出土はないが、周辺状況からSK21001に先行するも

のと判断した。北から3番目の柱穴内には石が残っていたが原位置は保っていないかった。

SK22001 0.73m×0.63mの土坑で、残存深0.46mである。土師器が出土していることから、古墳時代中期ごろの土坑であろう。

SD23001 長さ3.28m以上、幅1.03mの東西溝で、調査区外へ広がっている。12世紀前半ごろの土師器甕や山茶碗が出土したほか、瓦器碗が出土した。

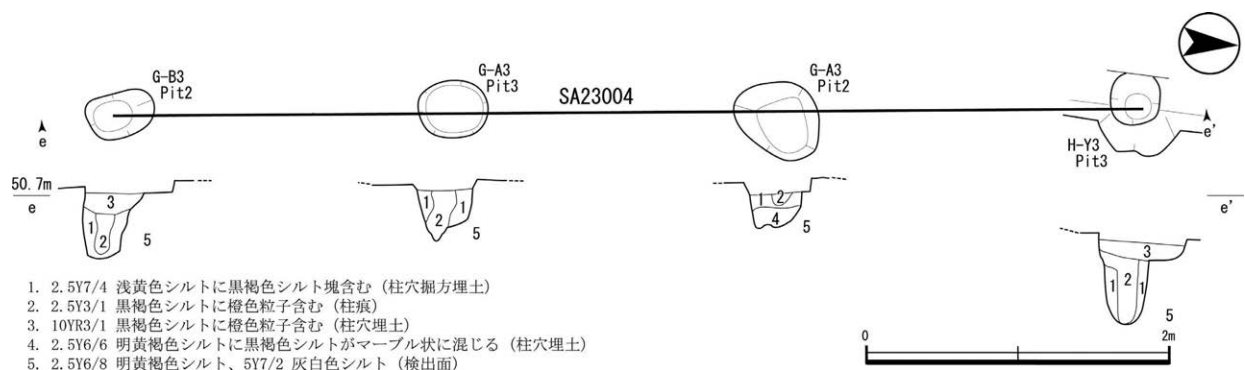
SK23002 0.89m×0.93mの土坑で、残存深0.08mである。土師器や陶器の小片が出土している。中世以降の土坑であろう。

SK23003 1.10m以上×0.27m以上の土坑で、残存深0.18mである。土師器が出土しているが、ごく小片のため、時期の特定には至らなかった。

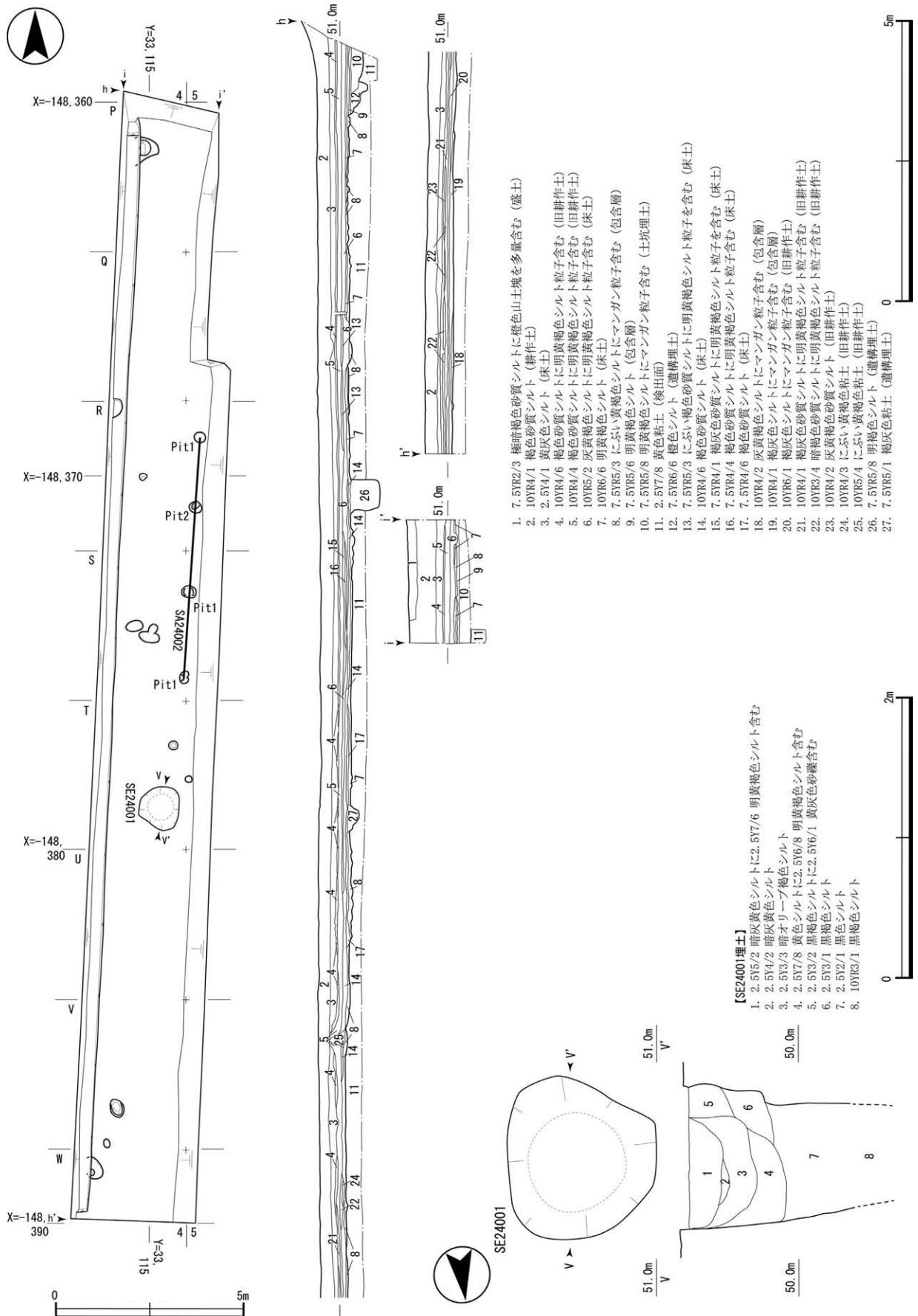
SA23004 南北方向の柱列である。3間分を検出した。出土遺物はないが、周辺の状況から平安時代末から鎌倉時代初めの遺構といえよう。柱穴の規模は平均で径0.38m、残存深0.41mである。北側は、調査区外へ延び状況は不明だが、掘立柱建物となる可能性がある。南側には広がらない模様である。

SE24001 1.09m×1.17mの素掘りの井戸である。掘削は、安全性を考慮し完掘していない。深さ3.0m程度まで確認をした。土師器、山茶碗、瓦器が出土したほか、遺構の上方で鉄滓が1点出土している。土器の様相からみて、12世紀中ごろから13世紀初頭であろう。

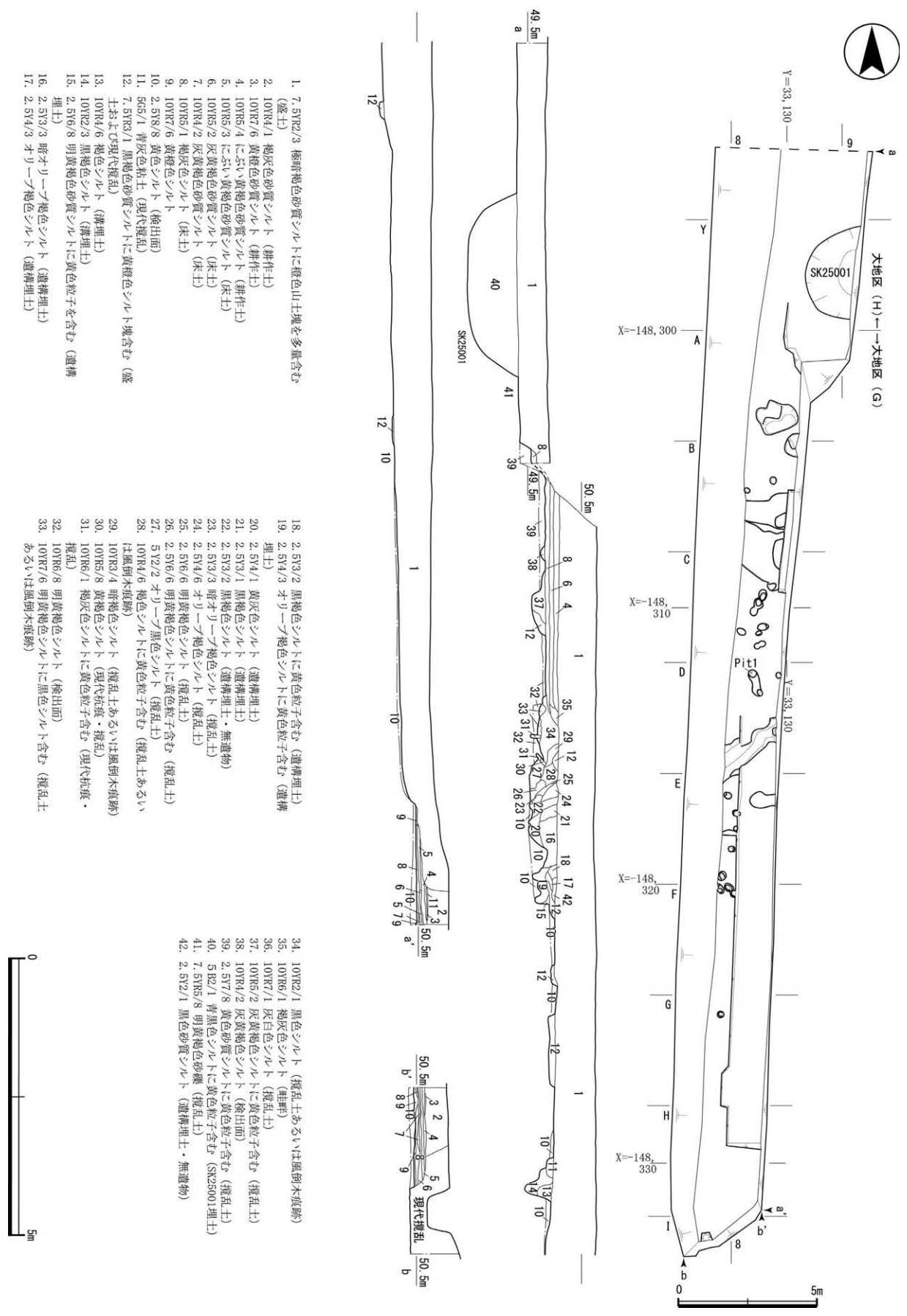
SA24002 南北方向の柱列である。3間分を検出した。南北方向はこれ以上広がらないが、東側の調査区外に広がり建物となる可能性がある。遺物が出土しておらず、時期の特定はできないものの、周辺の状況から井戸SE24001とほぼ同時期と考えている。



第11図 第2次調査3区SA23004平面図・断面図(1:50)



第12図 第2次調査4区平面図(1:150)、土層断面図(1:100)、SE24001平面図・断面図(1:40)



1. 7. 5YR2/3 極暗褐色砂質シルトに褐色山土塊を多量含む (盛土)
2. 10YR4/1 極灰色砂質シルト (耕作土)
3. 10YR7/6 黄褐色砂質シルト (耕作土)
4. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト (耕作土)
5. 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト (床土)
6. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト (床土)
7. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト (床土)
8. 10YR3/1 極灰色シルト (床土)
9. 10YR7/6 黄褐色シルト
10. 2. 5YR8 黄色シルト (検出面)
11. 5G5/1 青灰色粘土 (現代擾乱)
12. 7. 5YR3/1 黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト塊含む (盛土および現代擾乱)
13. 10YR4/6 褐色シルト (溝埋土)
14. 10YR2/3 黒褐色シルト (溝埋土)
15. 2. 5Y6/8 明黄褐色砂質シルトに黄色粒子を含む (遺構埋土)
16. 2. 5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (遺構埋土)
17. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色シルト (遺構埋土)

18. 2. 5Y3/2 黒褐色シルトに黄色粒子含む (遺構埋土)
19. 2. 5Y4/3 オリーブ褐色シルトに黄色粒子含む (遺構埋土)
20. 2. 5Y4/1 黄褐色シルト (遺構埋土)
21. 2. 5Y3/1 黒褐色シルト (遺構埋土)
22. 2. 5Y3/2 黒褐色シルト (遺構埋土・無遺物)
23. 2. 5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (擾乱土)
24. 2. 5Y4/6 オリーブ褐色シルト (擾乱土)
25. 2. 5Y6/6 明黄褐色シルト (擾乱土)
26. 2. 5Y6/6 明黄褐色シルトに黄色粒子含む (擾乱土)
27. 5Y2/2 オリーブ黒色シルト (擾乱土)
28. 10YR4/6 褐色シルトに黄色粒子含む (擾乱土あるいは黒脚木痕跡)
29. 10YR3/4 暗褐色シルト (擾乱土あるいは黒脚木痕跡)
30. 10YR5/8 黄褐色シルト (現代新痕・擾乱)
31. 10YR6/1 極灰色シルトに黄色粒子含む (現代新痕・擾乱)
32. 10YR6/8 明黄褐色シルト (検出面)
33. 10YR7/6 明黄褐色シルトに黒色シルト含む (擾乱土あるいは黒脚木痕跡)

34. 10YR2/1 黒色シルト (擾乱土あるいは黒脚木痕跡)
35. 10YR6/1 極灰色シルト (雑土)
36. 10YR7/1 灰白色シルト (擾乱土)
37. 10YR7/1 灰白色シルトに黄色粒子含む (擾乱土)
38. 10YR5/2 灰黄褐色シルトに黄色粒子含む (擾乱土)
39. 2. 5Y7/8 黄色砂質シルトに黄色粒子含む (SK25001埋土)
40. 5R2/1 青黒色シルトに黄色粒子含む (SK25001埋土)
41. 7. 5YR5/8 明黄褐色砂質シルト (遺構埋土)
42. 2. 5Y2/1 黒色砂質シルト (遺構埋土・無遺物)

第13図 第2次調査5区平面図(1:200)、土層断面図(1:100)

柱穴の規模は平均すると、0.31m、残存深は0.22mであった。北から2番目の柱穴には石が残っていたが、原位置は保っていなかった。

である。陶磁器などの出土遺物からみて、近世以降の土坑あるいは素掘り井戸であろう。

(土橋)

SK25001 1.73m以上×3.40mの土坑で、残存深0.93m

調査 次数	調査区	大地区	グリッド	遺構番号	性格	時代	規模 (m)			出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
							長さ	幅	深さ		
1	—	B	V, W14	SK10001	土坑	縄文中～後期	0.57	0.57	0.34	縄文土器	SK1
1	—	B	W11, 12	SF10002	焼土痕	縄文中～後期	0.20	0.31	0.07		SF2
1	—	B	W, X9	SK10003	土坑	縄文中～後期	1.79	1.15	0.34	縄文土器	SK3
1	—	B	V14, 15	SK10004	土坑	縄文中～後期	0.77	0.53	0.29	縄文土器	B-V14Pit1下層で検出, SK4
1	—	B	V10	SK10005	土坑	縄文中～後期	0.59	0.95	0.18	縄文土器	SK5
2	1	AC	T24, 25	SK21001	土坑	鎌倉	4.37	4.37	0.37	土師器・陶器等	
2	1	AC	X24ほか	SD21002	斜行溝	中世以降	9.15	0.29	0.18	土師器	C-X23Pit1→SD21002
2	1	AC	X25	SK21003	土坑	弥生	1.34	0.97	0.15		
2	1	AC	S24	SK21004	土坑	鎌倉	0.92	0.52	0.18	土師器	
2	1	AC	Y24	SK21005	土坑	不明	1.10	0.41	0.21	土師器	
2	1	AC	T24	SA21006	南北柱列	不明	3.10	-	-		SK21001底で確認、南北3間、柱間北から0.9m、0.9m、1.1m、C-T24Pit1・2・3・4、Pit3に根石(原位置不保持)
2	2	AD	X25	SK22001	土坑	古墳中	0.73	0.63	0.46	土師器	
2	3	F	X3	SD23001	東西溝	鎌倉	3.28	1.03	0.20	土師器・陶器・瓦器ほか	
2	3	E	H, I3	SK23002	土坑	室町	0.89	0.93	0.08	土師器・陶器	
2	3	E	J, K3	SK23003	土坑	不明	1.10	0.27	0.18	土師器	
2	3	E・F	Y～B23	SA23004	南北柱列	不明	7.11	-	-		鎌倉か、南北3間検出、柱間北から2.4m、2.1m、2.4m、H-Y3Pit3・G-A3Pit2, 3・G-B3Pit2
2	4	G	T4	SE24001	井戸	鎌倉	1.09	1.17	3.00	土師器・陶器・瓦器	素掘り井戸か、完掘できず、遺物はSKとして取り上げ
2	4	G	R, T5	SA24002	南北柱列	不明	6.74	0.31	0.22		南北3間、東西方向に広がるか、柱間北から1.9m、2.2m、1.9m、I-R5Pit1, 2・I-S4Pit1・I-S5Pit1
2	5	H	Y8, 9	SK25001	土坑	近世以降	1.73	3.40	0.93	陶磁器	素掘り井戸になる可能性あり

第1表 遺構一覧表

3 遺物

(1) 出土遺物の概要

第1次調査においては、縄文時代から鎌倉時代・室町時代までの土器・陶磁器・石器および石製品等が出土している⁽¹⁾。

第2次調査においては、縄文時代から近世までの土器・陶磁器⁽²⁾・鉄滓等が出土している。

ここでは、第1次調査及び第2次調査の遺構、遺物包含層の出土遺物である土器・陶磁器等(石製品・鉄滓を含む)を示す。各遺物の詳細については出土遺物観察表(第2～13表)を参照されたい。

(2) 範囲確認調査(第14図)

包含層(1・2) 遺物包含層からの出土と考えられる。1・2はいずれも縄文土器深鉢である。1は少し外傾する口縁部片である。細かい条線が一部に見られる。2は底部片、外面には網代痕が明瞭に残る。これらは、縄文時代後期、いわゆる縁帯文土器期の範疇と考えられる。

(3) 第1次調査(第15～26図)

a 遺構出土遺物

SK10001(3) 3は縄文土器深鉢、体部片であろうか。沈線による施文が一部に見られる。縄文時代後期前半期に属するものと考えられる。

SK10003(4～19) 4～19は縄文土器、4～13は口縁部、14～18は体部、19は底部である。11は鉢、12、13はボウル状の浅鉢、これら以外は深鉢となる。4は口縁部外面に8字状の浮文、横位の沈線下には縄文がみられる。器形はバケツ状になると考えられる。堀之内式系のものといえよう。5、7は口縁部が肥厚する、いわゆる縁帯文土器期の特徴を示している。10は沈線間に刺突が施されている。11は内折する口縁部自体が外反する。無文の口縁部、頸部に横位の沈線文を施されるものといえよう。12は内弯する口縁部外面に沈線による幾何学状の文様が施されている。13は内弯する口縁部の無文土器である。14・15は磨消縄文が施されている。16は外面に条線がみられる。17・18は橋状突起の一部であろうか。これらは、縄文時代後期前半期に位置付けることができよう。

SK10004(20～26) 20～26は縄文土器、20～23は口縁部、24・25は体部、26は底部である。器種としては、深鉢と考えられる。20は浅い沈線が一部に残る。

21～25は加飾のない無文土器である。22は口縁部に1カ所内側にオサエがみられる。26の底面には一部網代痕がみられる。いずれも縄文時代後期前半期のものと考えられる。

SK10005(27～40) 27～40は縄文土器、27～30は口縁部、31～39は体部、40は底部である。27・30は横位の沈線が外面にみられる。28・38・39は無文土器である。29は肥厚する口縁部外面に縄文が施されている。小波状を呈しているものか。31・32・34は沈線と縄文が外面に施されている。いわゆる磨消縄文の範疇であろう。33・36は条線が外面にみられる。35・37は縄文が外面に施されている。40は底部外面に網代痕がみられる。これらは縄文時代後期前半期のものと考えられる。

Pit(41・42) 2点とも縄文土器深鉢である。41は無文土器の口縁部片、42は無文土器の体部片である。これらは縄文時代後期前半期のものと考えられる。

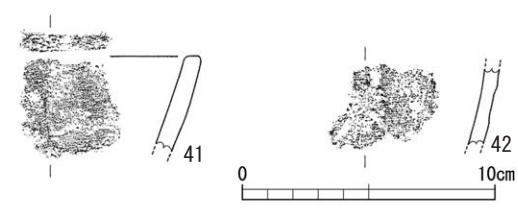
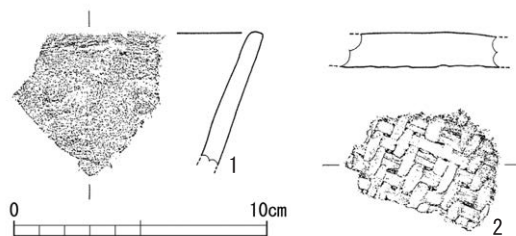
b 落ち込み堆積層出土遺物

落ち込み堆積層としたものについては、調査当初は風倒木痕としたものを、検討のうえ浅い谷状の落ち込みに堆積したものと把握した。ここから、縄文土器(43～92)、石器・石製品(325・326)が出土した。遺物観察表には「落ち込み」と表記している。

43は注口土器の注口部分である。加飾がないものである。44～92は縄文土器深鉢と考えられる。44～65は口縁部片、66～82は体部片である。44～55、57～60、62・64・65は加飾のない無文土器といえる。49は口縁部が肥厚している。51は短い口縁部が外反している。58は少し口縁部が内弯している。64・65は細いヘラ状工具による強めのナデが外面にみられる。56は肥厚する口縁端部に2条の沈線が施されている。風化が進んでいるのか、口縁端部や沈線間には施文は確認できない。縁帯文土器成立期に属するものであろう。61・63は縄文が外面全体にみられる。いわゆる縄文地土器である。66は外面に横走る隆帯上にキザミ、以下に2条の沈線が縦方向に延びる。67・70・71・73・74は外面に複数の沈線文が施されている。68・69・72は沈線間に縄文がみられる。磨消縄文系といえる。75～80は縄文が外面全体にみられる。いわゆる縄文地のものである。81は縦方向の

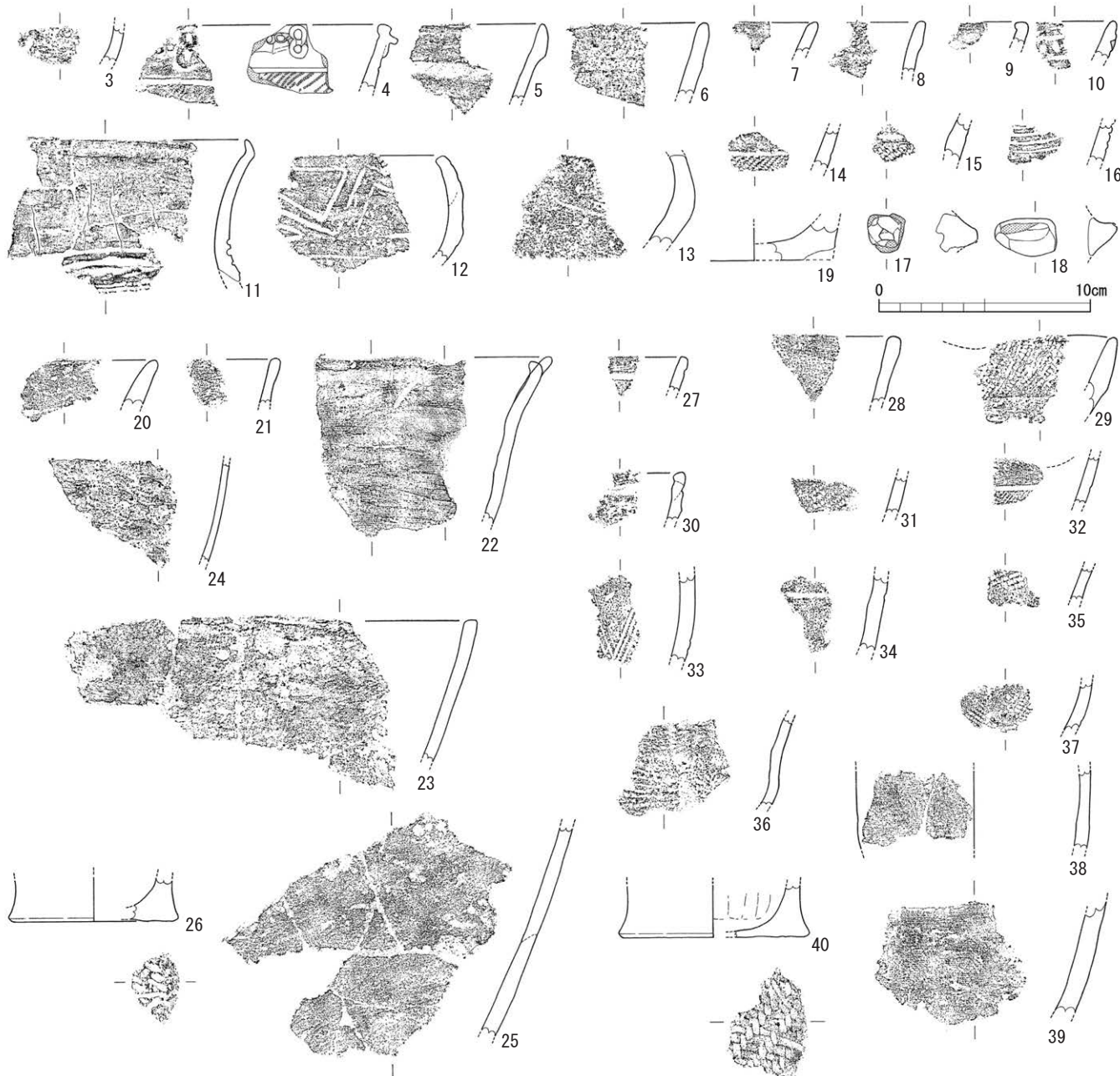
条線が外面に施されたものである。82は頸部付近のもので、外面に格子状に条線が施されている。83～92は底部片である。平底のものである。明瞭な凹底は示していない。これらは、縄文時代後期前半期に

属するものと考えられる。つづいて、石器について述べる。325はサヌカイト製の楔形石器である。剪断面を有し、横長の形状のものであろう。本器種特有の階段状剥離が残っている。326はサヌカイト製



第14図 範囲確認調査出土遺物実測図(1:3)

第16図 第1次調査出土遺物実測図2(1:3)



第15図 第1次調査出土遺物実測図1(1:3)

の削器である。刃部の形成は規則的ではなく、任意の縁辺の一部に安定して形成をしているようである。前述した縄文土器と同時期のものであろう。

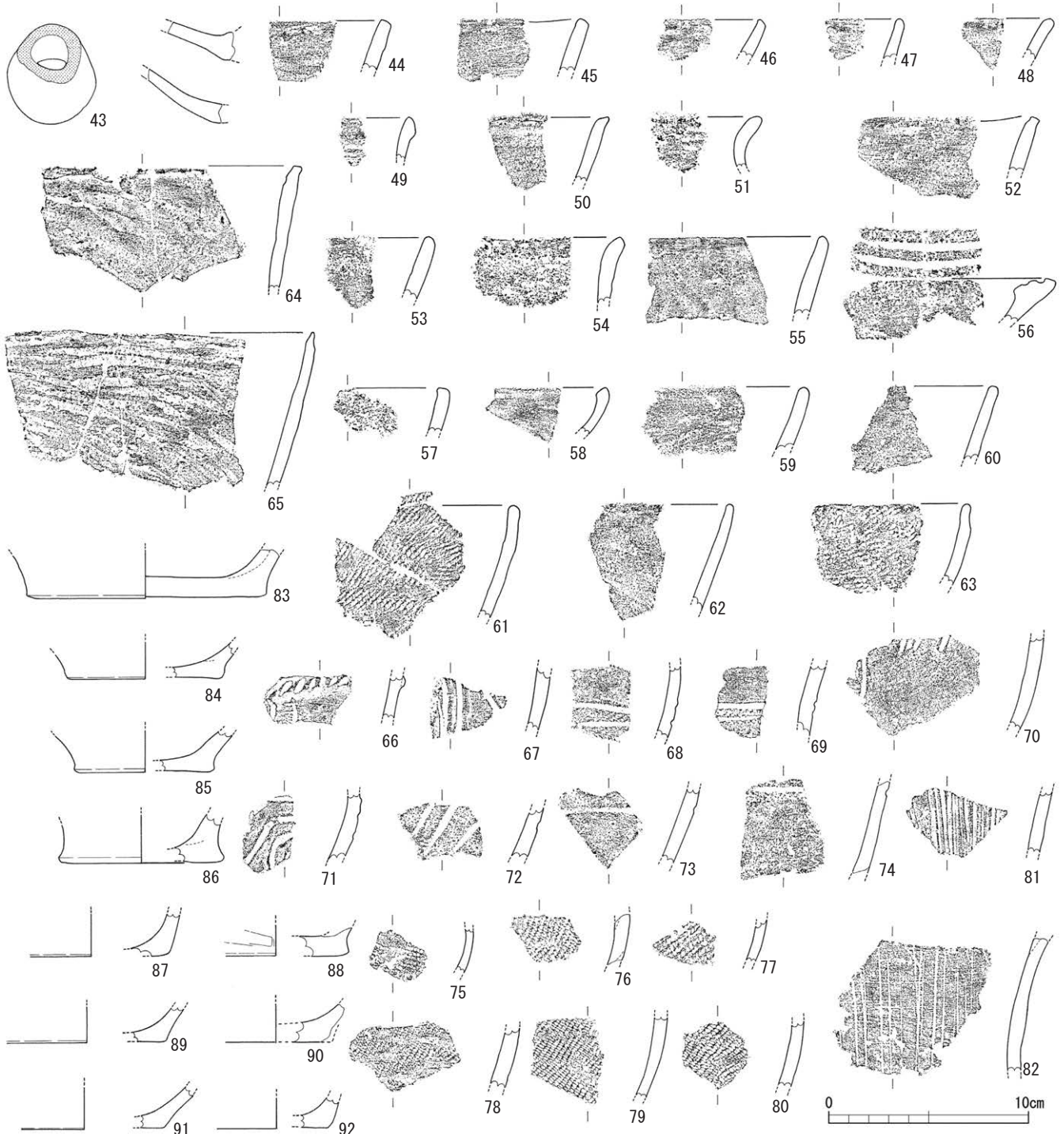
c 表土・遺物包含層等出土遺物

表土・遺物包含層等からの出土遺物を一括して報告をする。落ち込みのものは分別した。

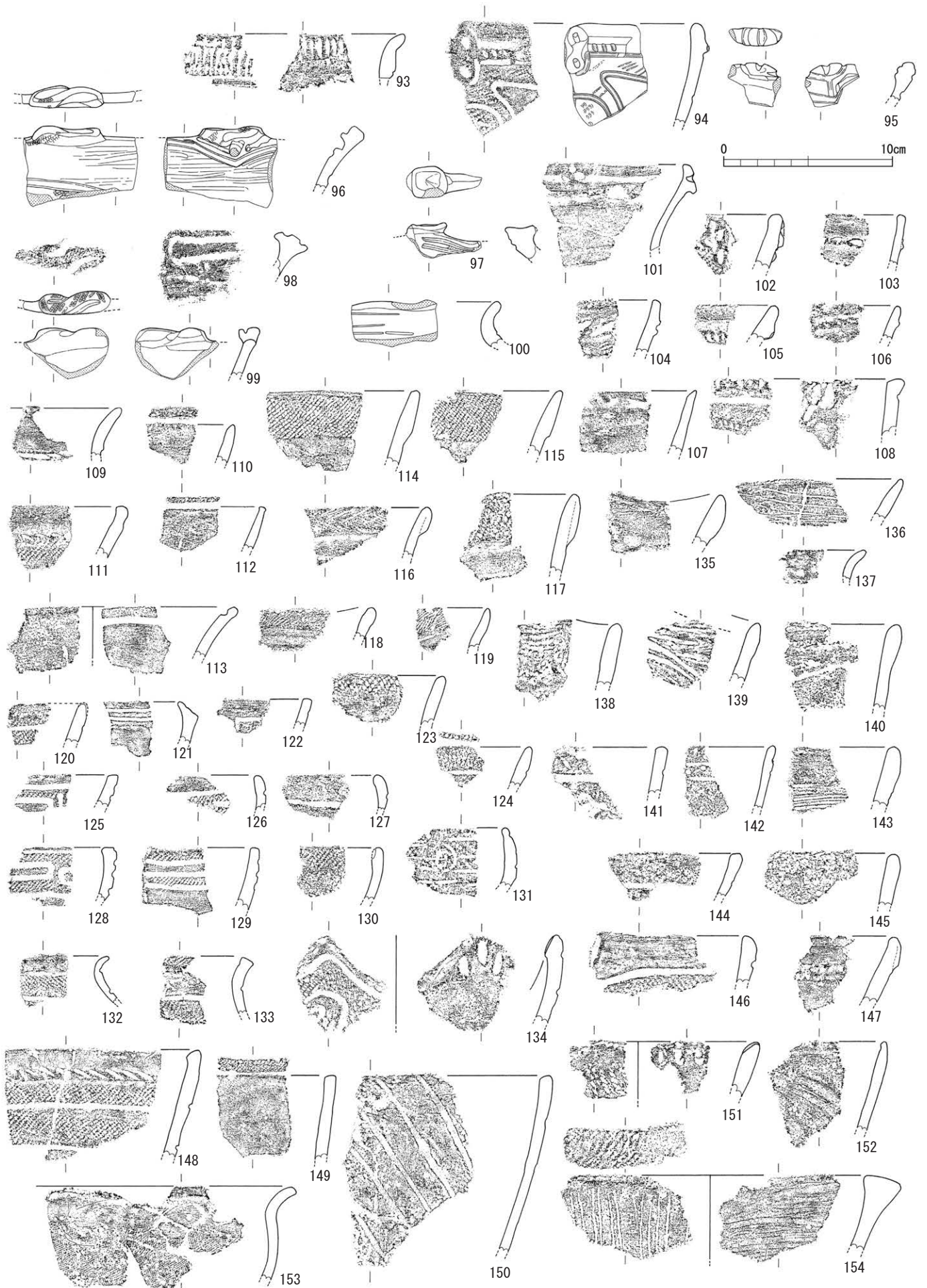
132・133・185・284は縄文土器鉢、153・201は縄文土器浅鉢であろうか。225を除くこれら以外は縄

文土器深鉢であろう。93～219は口縁部片、220～224・226～283は体部片、284～324は底部片である。

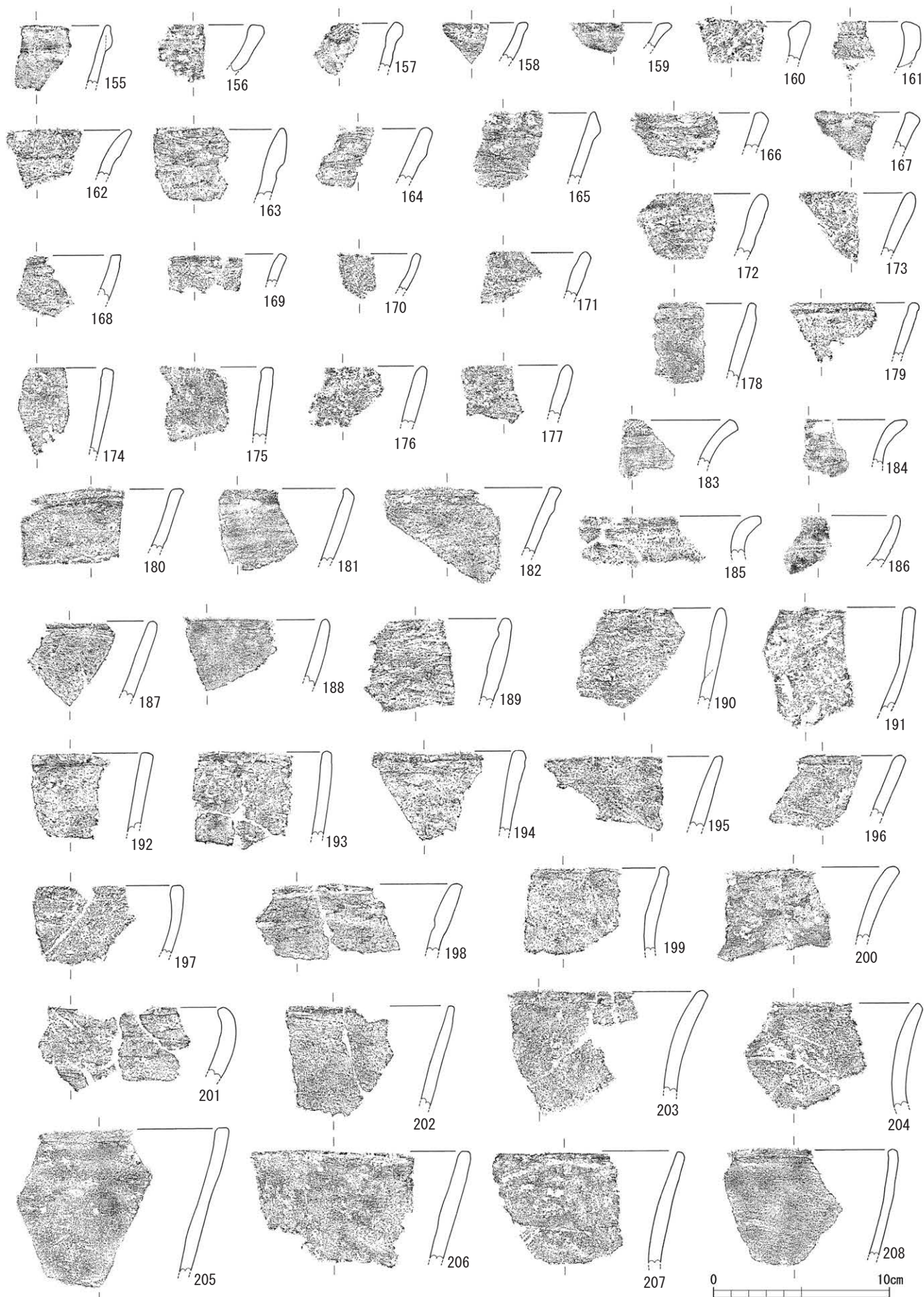
93は外面に横位の沈線文間に半截竹管による施文がみられるものの、断面が半円状になるほど強い押し引きではないようである。内面にはキザミがみられる。縄文時代中期前半に属するものであろう。94は外面の上部に8字状浮文とそこから横走る貼付隆帯上にキザミがみられる。以下には2条の沈線文



第17図 第1次調査出土遺物実測図3 (1:3)



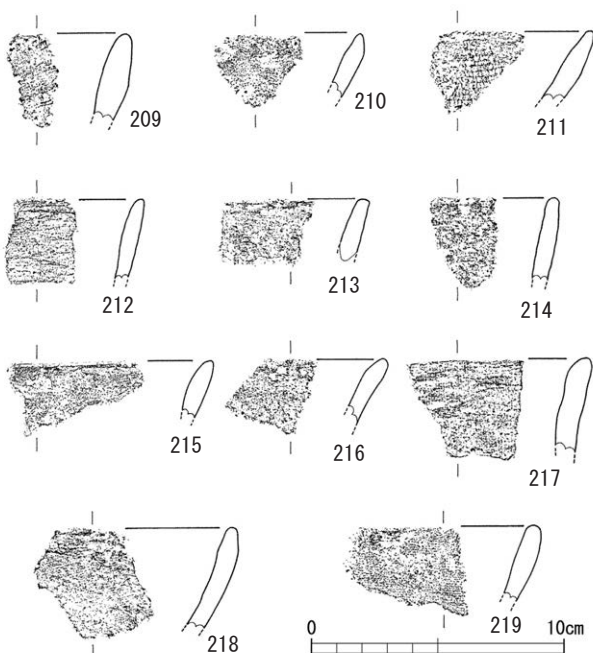
第18図 第1次調査出土遺物実測図4 (1:3)



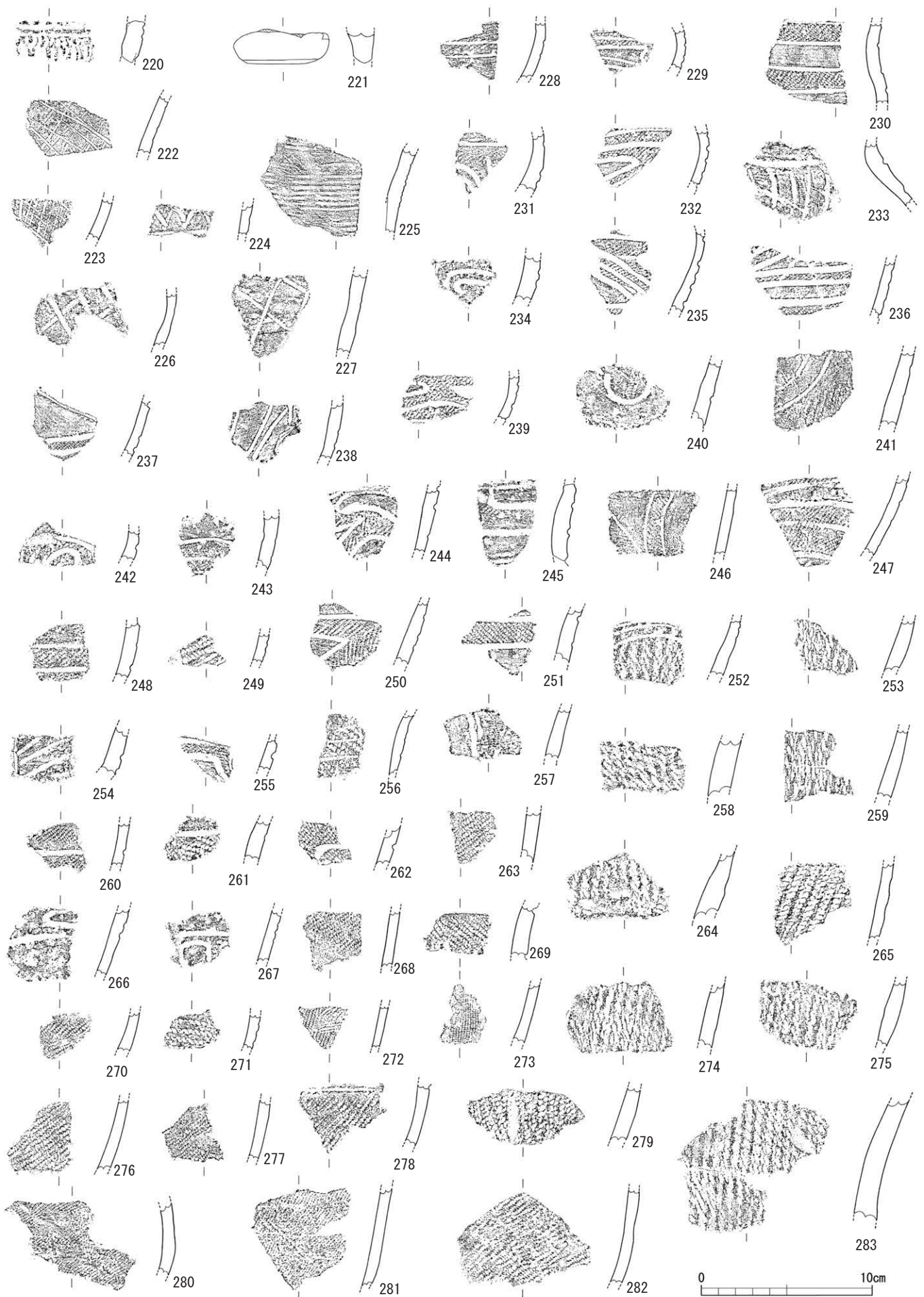
第19図 第1次調査出土遺物実測図5 (1:3)

間に縄文が施されている。器形はバケツ状となる、堀之内式系のものであろう。95は口縁端部に小突起がみられる。それを巡るかのように沈線文が内外面に施されている。96は口縁端部に粘土ひもを捻転させた小突起がみられ、一部には縄文が施されている。それを巡るかのように沈線文が内面に施されている。外面は小突起以下が無文となり頸部以下に横走する2条の沈線文がみられる。99も小突起のある同じ造作である。97は口縁端部に小突起がみられる。その位置から外面には横走する2条の沈線が延びる。98は口縁端部に1条の沈線文による方形の区画文が施されている。100は橋状突起の一部分であろうか。101は段差がついた肥厚する口縁部外面に途切れた1条の沈線文がみられる。それぞれの沈線端は棒状工具による円形の刺突がある。102は8字状浮文が残る。103～106は貼付隆帯上にキザミがみられる。108は縄文と沈線による文様が施されたものか。109は頸部付近に沈線文がみられる。110は口縁端部に縄文が施されている。111は横位の隆帯上にキザミ、以下に縄文が施されている。112は無文土器である。113は内面に1条の沈線文が施されている。時期が新しいものか。114・115・117～119・123・130は肥厚する口縁部に縄文が施されたものである。123・130は口縁部の肥厚が少なくなっている。116は肥厚する口縁部に条線がみられる。120は沈線

間に縄文が施されたものである。121は内折する口縁部外面に2条の細い沈線がみられる。122・127は外面に沈線が施されている。124は若干肥厚する口縁部端部と外面に縄文、その下に沈線がみられる。125・126・128・129・131～134は沈線間に縄文が施されたものである。125・126は3条の沈線間に縄文が施されたものであろうか。128は横位の3条の沈線と縄文が施されている。131は口縁に沈線による円弧文、そこから3条ないし4条の沈線が横走する。沈線自体が細い。134は波状口縁で、口縁部外面に2条の沈線間に縄文が施されている。J字状になるものといえよう。波頂部内面に3カ所のキザミがみられる。135・137・140は加飾がない無文土器である。136・139・143は外面に条線が施されている。138は外面に縄文がみられる。141は外面に沈線がみられる。142は横走する沈線間に刺突がみられる。144は外面に沈線と縄文が施されている。145は肥厚する口縁部外面に縄文がみられるものであろう。146は太い沈線間に縄文が施されているものである。147・152は口縁部が肥厚している。加飾のない無文土器である。148は口縁部に横走する貼付隆帯上にキザミ、沈線間に縄文が施されている。堀之内式系である。149は口縁端部に細かい縄文がみられる。150は間隔をあけた平行沈線が斜行している。口縁部ではない可能性がある。151は外面に押圧縄文、内面はキザミがみられる。153は外反する短い口縁を持つ。外面には細密な条痕がみられる。154は大きく肥厚する口縁端部に縄文、外面に縦方向に条線がみられる。155～165は肥厚する口縁部をもつ。157は肥厚する部分に縄文がみられる。160は外面に縄文がみられ、肥厚する口縁端部に1条の沈線が巡るようである。これら以外は加飾のない無文となる。166～169・171～185・187～210・212～219は外面に加飾がない無文土器である。口縁端部や口縁部の形状は多様である。170・211は外面に縄文が施されているようである。186は外面に条線がみられる。ここまでの文末に所属時期がないものについては、縄文時代後期前半期に属するものといえよう。220は外面に半截竹管の押引による断面がかまぼこ状の横走する文様がみられ、以下に同じ半截竹管による刺突もみられる。221は脚付鉢脚部部と思われる。222・223



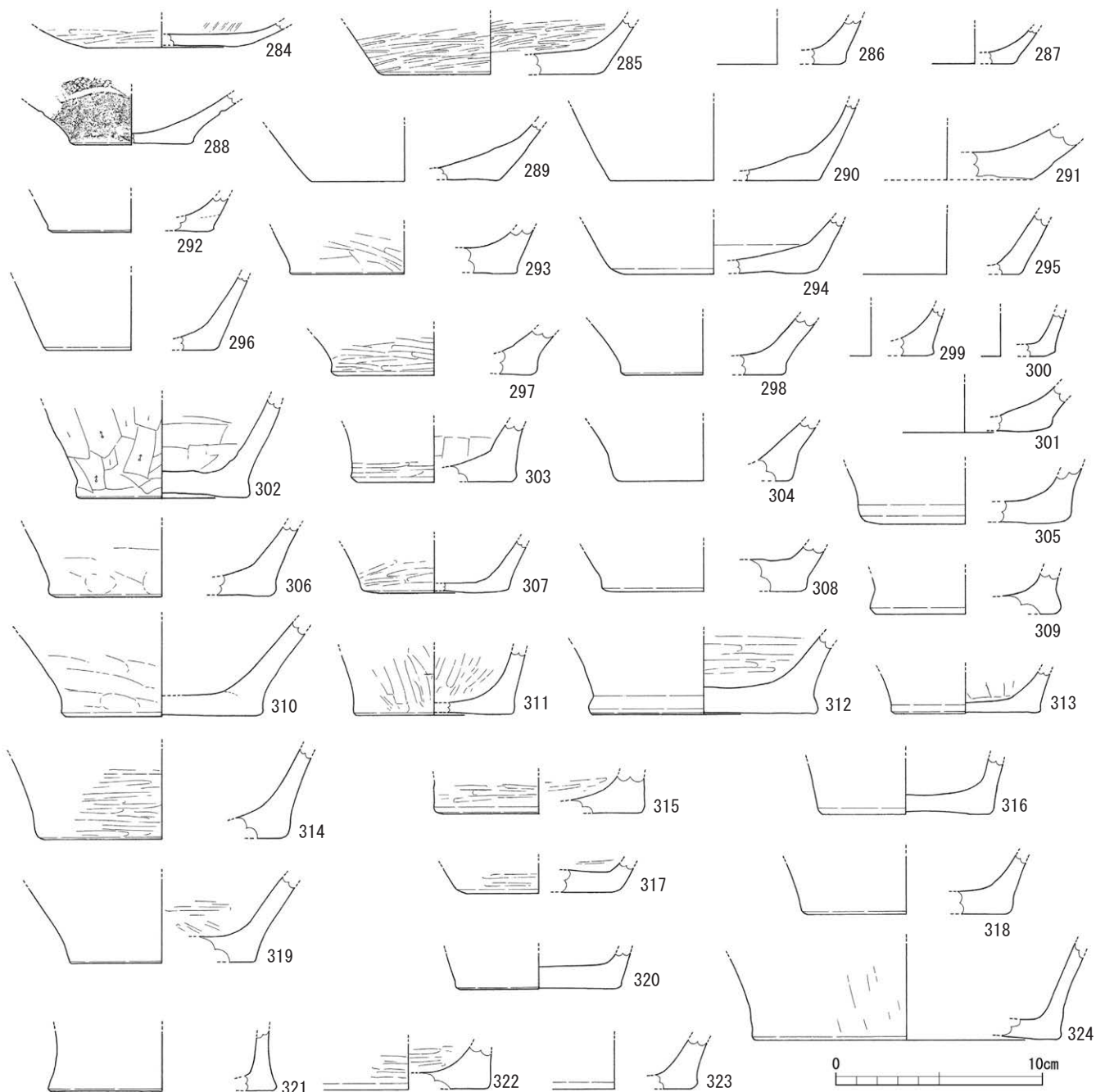
第20図 第1次調査出土遺物実測図6 (1:3)



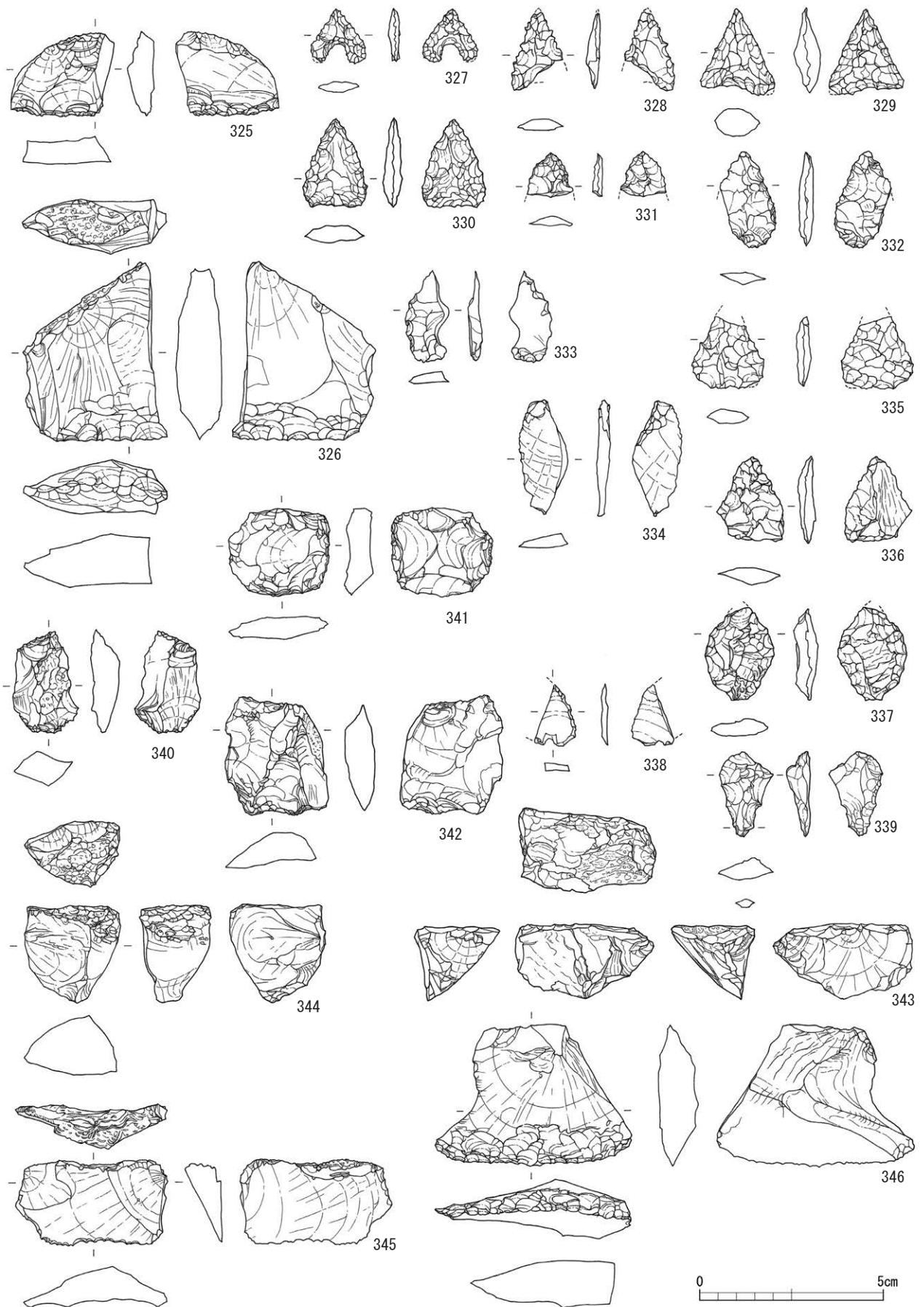
第21図 第1次調査出土遺物実測図7 (1:3)

は外面に格子状の条線がみられる。224・226・227は外面に格子状に沈線が施されたものである。225は外面に横位の櫛描文がみられる。弥生土器壺か。228～233・235～237・239～251・254～257・260～262は外面に沈線間に縄文が施されたもので、無文の部分が残る磨消縄文が多くみられる。229・232・235は外面に3条の沈線による文様構成がみられる。234・238・266・267は外面に沈線がみられる。234は沈線間に淡い赤彩の可能性ある。239は外面に沈線による楕円状の区画文が施されている。区画内

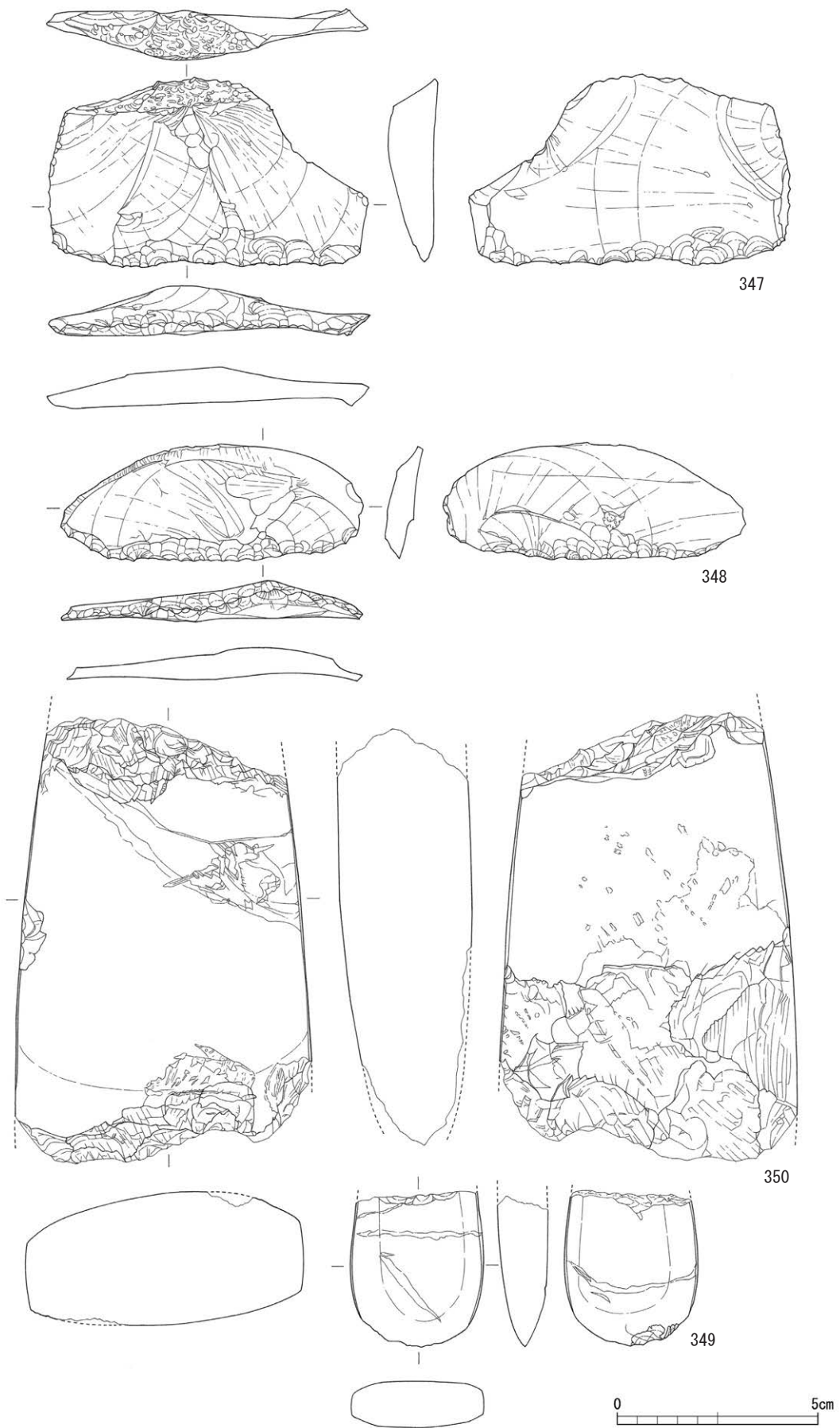
は無文となっている。263・268～273・276～278・280～282は外面に縄文が施されている。271は絡条体による施文の可能性ある。273は施文の原体が縄でない可能性ある。252は外面には縄文と半截竹管の押引による文様が弧状に施されている。253・258・259・264・265・274・275・279・283は外面に縄文がみられる。これらの縄文原体は本遺跡で確認できるものとは差違がある。これらの所属時期については、器厚の厚みに差違があり、縄文時代中期に遡る可能性あろう。ここまでのところで、文末に



第22図 第1次調査出土遺物実測図8(1:3)



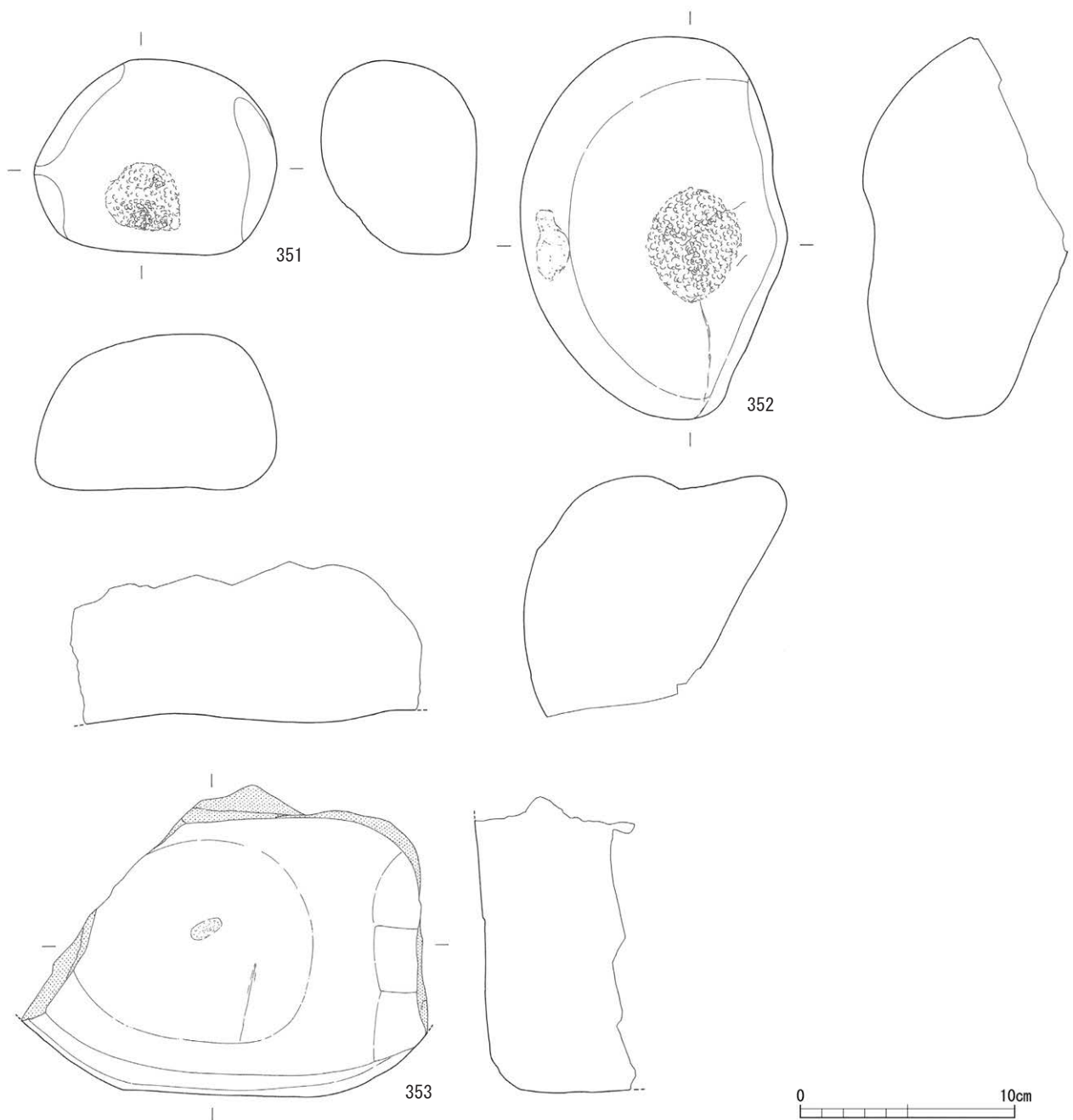
第23図 第1次調査出土遺物実測図9 (2:3)



第24図 第1次調査出土遺物実測図10(2:3)

所属時期を述べているもの以外は、縄文時代後期前半期に属するものと考えられる。284は底部に脚部が付く可能性がある。285～324は平底の底部片である。288は沈線と縄文が一部に施されている。底部から直線的に体部に向けてたちあがるものと接地面が少し膨らみたちあがるものがある。これらは、概ね縄文時代後期前半期に属するものといえよう。284は縄文時代中期後半期に遡る可能性がある。

327～353は石器で、縄文時代中期から後期にかけてのものといえよう。327～332・335～337は石鏃である。327～329は基部が凹んだ形状で、330・335・336は基部が平らな形状である。なお、336は石鏃へ成形途中で放棄されたものの可能性がある。331・332は基部を欠いている。337は基部側に自然面が残る。333は石鏃未製品あるいは二次加工痕有剥片とみられる。334は使用痕有剥片である。339は石錐ま



第25図 第1次調査出土遺物実測図11(1:3)

たは石鏃未製品である。340～342は楔形石器である。343・344は石核である。一部自然面が残る。345は使用痕有剥片である。346～348は削器である。349・350は磨製石斧である。349は基部を欠いている。350は基部と刃部を欠いている。351・352は敲石である。353は台石と考えられる。一部に面的な擦痕を確認している。

354は灯明皿として使用されていた陶器皿、江戸時代のものであろう。355・356は土師器羽釜である。357・358は土師器鍋である。これらは中世に属するものといえよう。359は弥生土器底部片である。剥離が多いため残りが良くない。360は山茶碗口縁部、361～368は山茶碗底部である。これらは藤沢編年第4～5型式にあたろう。369は陶器鉢である。370は鉄釉がみられる陶器皿である。371は瀬戸産の陶器皿である。これらは概ね江戸時代に属するものであろう。

(4) 第2次調査(第27図)

a 遺構出土遺物

SK21001 (372～377) 372は瓦器椀である。373～377は山茶碗である。いずれも13世紀前半ごろのものである。

SK21004 (378) 土師器鍋である。12世紀前半ごろのものか。

SK21005 (379) 弥生土器壺で、口縁部のみ出土である。内外面共にハケ・ナデを施し、立ち上がった口縁部外面に櫛状工具による矢羽状の刺突、ナデが

みられる。

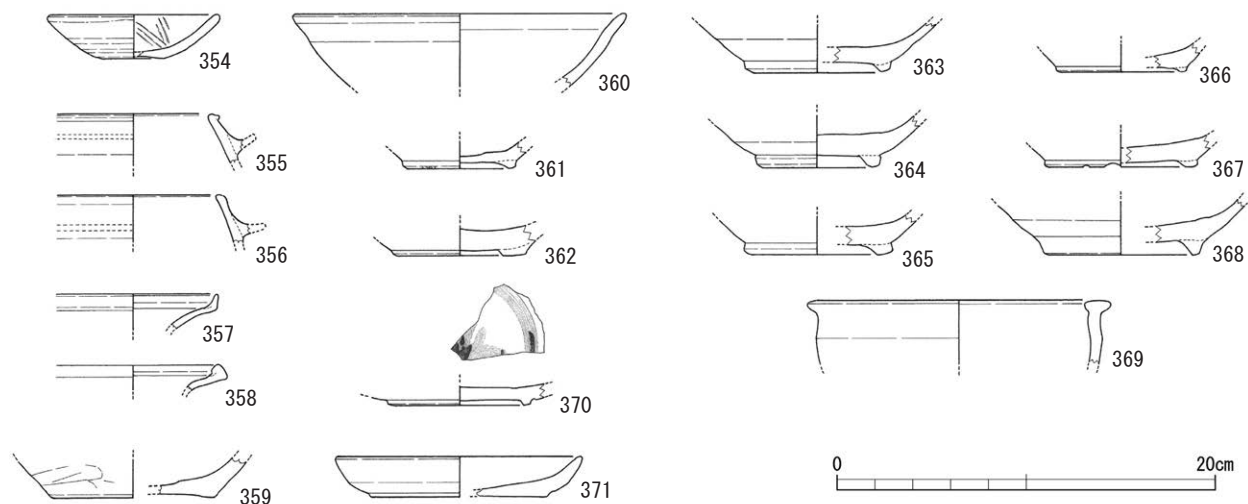
SK22001 (380・381) 380は土師器壺の頸部付近のものか。381は土師器台付甕の口縁部片である。古墳時代中期ごろのものである。

SK23002 (382) 土師器杯である。12世紀ごろのものであろうか。

SD23001 (383～393) 383～385は瓦器椀である。386～388は山茶碗である。389は山皿、高台に粉殻痕がみられる。藤沢編年第4～5型式にあたるものである。390・391はロクロ土師器皿である。392は土師器皿である。389とほぼ同時期と考える。

3区Pit (394～397) 394は瓦器椀である。395は山茶碗で、藤沢編年第5型式にあたる。13世紀前半ごろのものである。396はロクロ土師器皿である。397は土師器皿である。395とほぼ同時期のものであろうか。

SE24001 (398～417) 398・399は内側の埋土から出土したものである。398は山茶碗である。藤沢編年第5型式にあたり、13世紀前半ごろのものである。399はいわゆる椀形鉄滓である。400～415は埋土の外側から出土したものである。400は土師器皿、401は山皿口縁部片、402は瓦器椀の底部片である。403・404は山茶碗である。藤沢編年第4から5型式にあたる。405は土師器鍋である。いずれも12世紀後半から13世紀初頭にかけてのものであろう。406・407・409・410は山茶碗である。406・407はやや古相の玉縁椀にもみえる。409・410は藤沢編年第5から6型式

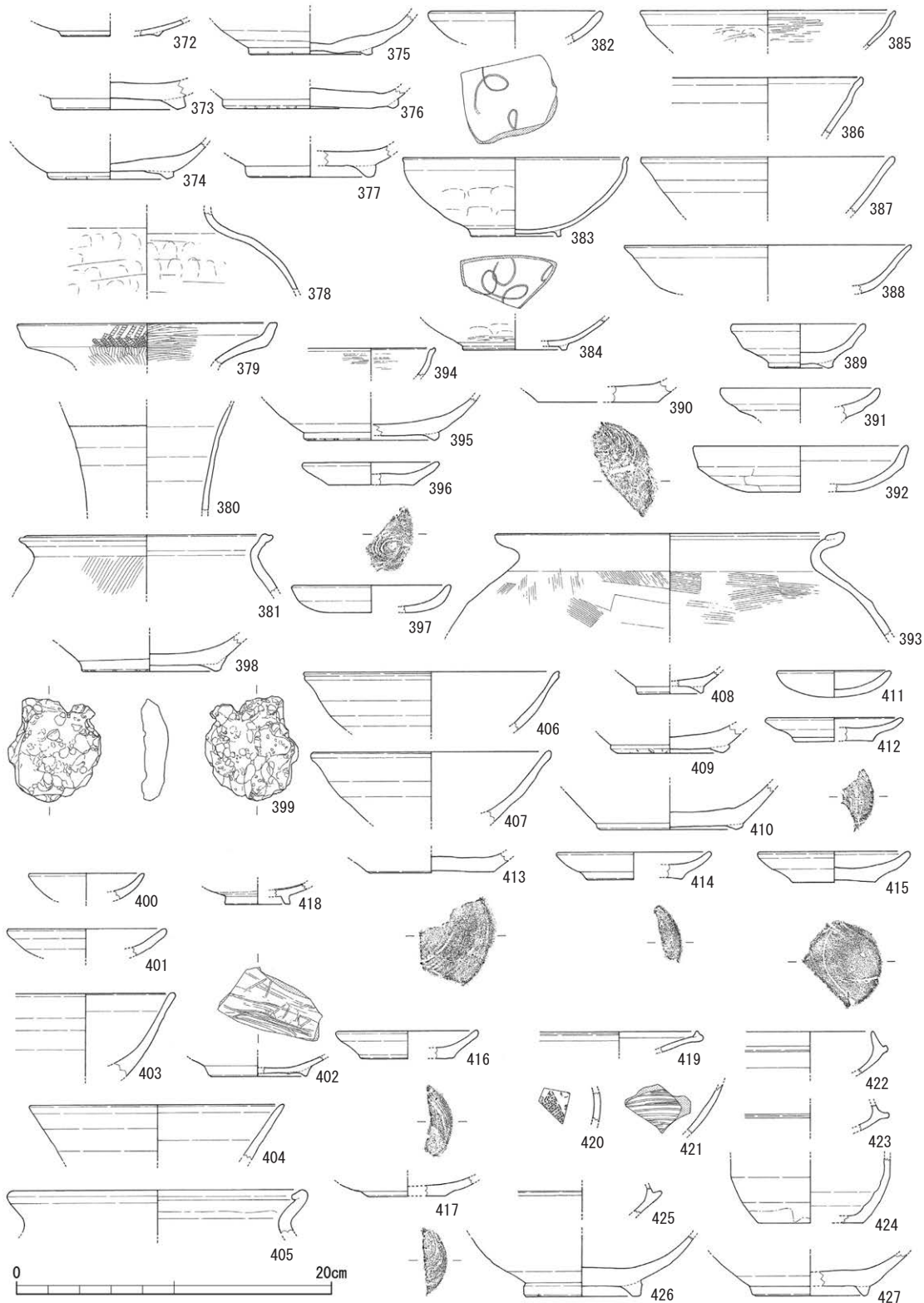


第26図 第1次調査出土遺物実測図12(1:4)

のものであろう。408は山皿で、藤澤編年第4型式か。411は土師器皿である。412～415はロクロ土師器皿である。416・417は埋土下層からの出土で、いずれもロクロ土師器皿である。12世紀ごろのもので

あろう。

SK25001 (418) 灰釉陶器皿である。9世紀ごろのものであろう。



第27図 第2次調査出土遺物実測図(1:4)

b 表土・包含層等出土遺物

2区包含層(419~424) 419は土師器鍋である。420は磁器片である。施釉方法が型紙を使用したものであることからみて、明治期のものである。421は瓦器碗である。422・423は須恵器杯、飛鳥時代のもの

か。424は瀬戸産陶器壺である。江戸時代のものである。

3区包含層(425~427) 425は須恵器杯、飛鳥時代のものか。426・427は山茶碗で、藤澤編年第4から5型式のものであろう。(土橋)

註

(1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。
 縄文土器・石器：三重県埋蔵文化財センター『新徳寺遺跡』1997年／小濱学「東海地方における福田K2式期土器群の様相」『立命館大学考古学論集Ⅲ-1』立命館大学考古学論集刊行委員会、2003年／小濱学「高瀬B遺跡 2 縄文時代中・後期土器」『研究紀要 第11号』三重県埋蔵文化財センター、2002年／山崎真治「緑帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要18』東京大学考古学研究室、2003年／加納実「堀之内式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／石田由紀子「中津式・福田KⅡ式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／千葉豊「緑帯文土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「凹線文系土器(宮滝式土器・元住吉山Ⅱ式土器)」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「平行磨消縄文土器群」の成立-北白川上層式と元住吉山式のあいだ-」『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論集4』真陽社、2020年／千葉豊「北白川小倉町遺跡における土器分類」『関西縄文時代研究の泉を拓く 関西縄文論集4』真陽社、2020年／上峯篤史2018『縄文石器 その視点と方法』京都大学学術出版会、2018年／三重県埋蔵文化財センター『鈴山遺跡(第2・3次)発掘調査報告』2018年／三重県埋蔵文化財センター『中野山遺跡(第4・5・8~13次)発掘調査報告』2022年／富井眞「北白川C式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／額綱茂・高橋健太郎「中富式・神明式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年

弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000年／愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990年
 古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』2001年
 須恵器：奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅴ』2017年
 灰釉陶器：橋崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会、1983年
 中世土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年／伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋貫Ⅱ』三重県埋蔵文化財センター、2000年
 山茶碗：藤澤良佑「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年
 古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良佑「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、2002年／「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年／「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年
 常滑：中野晴久「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年
 貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社／續伸一郎「中世後期の貿易陶磁器」(同上)
 瓦：山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所、2000年／『近世瓦の研究』奈良文化財研究所、2008年
 (2) 前川嘉宏「三重県における山茶碗の出土状況」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
1	044-03	縄文土器	深鉢	範確T2		口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	暗灰N3/0、にぶい黄橙10YR7/2	
2	044-02	縄文土器	深鉢	範確T2		底部	-	-	-	内:ナデ、オサエ 外:網代	やや密	-	浅黄橙10YR8/3 褐灰7.5YR4/1	
3	001-01	縄文土器	深鉢	B-V・W14	SK10001	体部	-	-	-	内:ナデ 外:不明	密	-	灰黄褐10YR4/4	表面摩擦
4	001-04	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:貼り付け、沈線、縄文	密	-	にぶい褐7.5YR6/3	
5	001-05	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ヨコナデ、ナデ	密	-	灰黄褐10YR5/2	
6	001-07	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ヨコナデ、ナデ	密	-	にぶい黄褐10YR4/3	
7	001-08	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:不明	密	-	灰黄褐10YR4/2	表面摩擦
8	002-01	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文、ミガキ	密	-	にぶい黄褐10YR5/3	
9	002-03	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ、ナデ	密	-	にぶい橙5YR6/4	

第2表 出土遺物観察表1

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
10	002-02	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線, 刺突	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
11	001-02	縄文土器	鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ヨコナデ, ミガキ, 沈線, 刺突	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
12	001-03	縄文土器	浅鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
13	001-06	縄文土器	浅鉢	B-W・X9	SK10003	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文か	密	-	橙7.5YR6/6	表面摩滅
14	001-09	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
15	002-04	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	体部	-	-	-	内:ナデか 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR6/3	口縁端部欠
16	002-05	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
17	002-07	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	体部	-	-	-	外:オサエ	密	-	灰黄褐 10YR5/3	橋状突起
18	002-06	縄文土器	深鉢	B-W・X9	SK10003	体部	-	-	-	外:ナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	橋状突起
19	001-10	縄文土器	深鉢か	B-W・X9	SK10003	底部	-	-	-	内:ナデ 外:オサエ	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
20	003-05	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ケズリ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	下層
21	003-03	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 5YR7/8	土壌化層
22	003-06	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	黒7.5YR2/1, にぶい褐7.5YR6/3	外面黒変 最下層
23	003-02	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ケズリ	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3	取上no. 4
24	003-01	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 7.5YR4/1	取上no. 2 外面ス付着
25	002-08	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ケズリ, ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	取上no. 1、3
26	003-04	縄文土器	深鉢	B-V14・15	SK10004	底部 1/12	-	7.4	-	内:ナデ 外:網代, ナデ	やや密	-	橙 2.5YR7/8	土壌化層
27	004-05	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ミガキ 外:ミガキ, 沈線	やや密	-	黒褐 7.5YR3/1	内外面黒変
28	004-04	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 10YR4/1	
29	003-07	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ナデ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	取上no. 1
30	004-03	縄文土器	不明	B-V10	SK10005	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線	やや密	-	灰白 10YR8/2	表面摩滅
31	004-08	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線, 縄文	やや密	-	浅黄橙10YR8/3 暗灰N3/0	
32	004-07	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/3	
33	005-02	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 条線	やや密	-	灰黄褐10YR5/2	
34	004-02	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/3	取上no. 3
35	004-06	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 縄文	やや密	-	黒褐 10YR3/1	
36	005-03	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内: 外:ナデ, 条線	やや密	-	にぶい赤褐 2.5YR4/4	
37	005-01	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 縄文	やや密	-	橙 5YR6/6	
38	005-04	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	にぶい橙 10YR7/4	
39	004-01	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	暗灰 N3/0	取上no. 2
40	005-05	縄文土器	深鉢	B-V10	SK10005	底部 2/12	-	8.6	-	内:ナデ 外:ナデ, 網代痕	やや密	-	橙 5YR7/6	
41	016-05	縄文土器	深鉢	B-V14	Pit 1	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	
42	024-03	縄文土器	深鉢	B-W15	Pit 1	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデか	密	-	黒褐 10YR3/2	表面摩滅
43	005-07	縄文土器	注口土器	B-V13	落ち込み	注口部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	暗褐 7.5YR3/3	風倒木痕跡
44	011-04	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	風倒木痕跡
45	010-02	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	風倒木痕跡
46	006-03	縄文土器	深鉢	B-W11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ヨコナデ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/4	風倒木痕跡
47	007-06	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ヨコナデ 外:ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR5/2	風倒木痕跡

第3表 出土遺物観察表2

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
48	006-04	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ヨコナデ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR5/3	風倒木痕跡
49	011-02	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	風倒木痕跡
50	011-06	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	風倒木痕跡
51	005-06	縄文土器	深鉢	B-V12・13	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	風倒木痕跡
52	011-05	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	風倒木痕跡
53	011-03	縄文土器	深鉢か	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ナデ 外:不明	やや密	-	灰白 10YR8/2	表面摩滅 風倒木痕跡
54	008-06	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデか 外:ナデか	密	-	橙 7.5YR7/6	表面摩滅 風倒木痕跡
55	008-05	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ヨコナデ 外:ナデ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	風倒木痕跡
56	008-04	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデか 外:ナデ, 口縁部沈線	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	表面摩滅 風倒木痕跡
57	012-02	縄文土器	深鉢	B-Y12	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	密	-	灰黄褐 10YR5/1	風倒木痕跡
58	007-04	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ヨコナデ 外:ミガキか	密	-	にぶい黄橙 10YR5/3	風倒木痕跡
59	011-08	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	灰白 10YR8/2	風倒木痕跡
60	010-01	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ, ナデ 外:ケズリ, ナデ	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3	風倒木痕跡
61	007-05	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 口縁部縄文	密	-	褐灰 7.5YR4/1	風倒木痕跡
62	011-07	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/8	風倒木痕跡
63	008-03	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, ヨコナデ 外:縄文	密	-	灰黄褐 10YR5/2	風倒木痕跡
64	008-02	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ, ヨコナデ 外:ナデ, ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	風倒木痕跡
65	008-01	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	口縁部	-	-	-	内:ケズリ, ミガキ 外:ナデ	密	-	褐灰10YR4/1 にぶい黄褐 10YR4/3	風倒木痕跡
66	011-01	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, キザミ, 沈線	やや密	-	褐灰 7.5YR4/1	口縁部欠 風倒木痕跡
67	006-08	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	密	-	にぶい黄橙 10YR5/3	風倒木痕跡
68	007-02	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部欠 風倒木痕跡
69	010-07	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ミガキ, 沈線	やや密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	風倒木痕跡
70	010-08	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	風倒木痕跡
71	010-03	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	やや密	-	黒褐 5YR2/1	口縁部欠 風倒木痕跡
72	006-02	縄文土器	深鉢	B-V8	落ち込み	体部	-	-	-	内:不明 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR6/4	表面摩滅 風倒木痕跡
73	006-07	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデか 外:沈線	密	-	にぶい橙 10YR7/3	表面摩滅 風倒木痕跡
74	006-06	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデか 外:沈線	密	-	にぶい橙 10YR6/3	表面摩滅 風倒木痕跡
75	005-08	縄文土器	深鉢	B-V13	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	黒褐 5YR3/1	取上no. 1 風倒木痕跡
76	007-07	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	明褐 7.5YR5/6	風倒木痕跡
77	007-08	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR5/4	風倒木痕跡
78	010-05	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	暗灰N3/0, にぶい 橙7.5YR7/4	風倒木痕跡
79	010-06	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	風倒木痕跡
80	010-04	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	風倒木痕跡
81	006-05	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:条線	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	風倒木痕跡
82	006-01	縄文土器	深鉢	B-V7	落ち込み	体部	-	-	-	内:ナデ 外:条線	密	-	灰黄褐 10YR4/2	風倒木痕跡
83	009-01	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部 2/12	-	11.0	-	内:ナデ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3	風倒木痕跡
84	009-06	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部 2/12	-	7.2	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 5YR7/6	風倒木痕跡
85	009-07	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部 2/12	-	6.4	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 5YR7/6	風倒木痕跡

第4表 出土遺物観察表3

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
86	009-02	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部 2/12	-	6.8	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/8	風倒木痕跡
87	009-04	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/8	風倒木痕跡
88	007-01	縄文土器	深鉢	B-W10	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	風倒木痕跡
89	009-05	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/6	風倒木痕跡
90	007-03	縄文土器	深鉢	B-X10	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	密	-	褐灰 10YR5/1	風倒木痕跡
91	009-03	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	風倒木痕跡
92	012-01	縄文土器	深鉢	B-X11	落ち込み	底部	-	-	-	内:ナデか 外:ナデか	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	表面摩滅 風倒木痕跡
93	036-08	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, キザミ 外:キザミ	密	-	橙 5YR6/6	半截竹管押し
94	028-04	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:隆帯キザミ, 沈線, 縄文	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/3	
95	021-05	縄文土器	深鉢	B-W9	包含層	口縁部	-	-	-	内:沈線, ミガキ 外:キザミ, 沈線	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3	
96	042-07	縄文土器	深鉢	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:縄文, ミガキ, 沈線, 刺突 外:縄文, ミガキ, 沈線	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	口縁部に小突起
97	013-04	縄文土器	深鉢	B-V11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線	密	-	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁部に小突起
98	026-08	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線 (口縁端部)	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
99	033-05	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線, 縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部に小突起
100	039-01	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	やや密	-	灰白 10YR8/2	突起一部?
101	020-01	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 刺突	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
102	020-04	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 刺突, 縄文	密	-	灰褐 7.5YR4/2	8字浮文
103	012-06	縄文土器	深鉢	B-V9	風倒木	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:貼付隆帯キザミ	密	-	褐灰 10YR4/1	
104	036-02	縄文土器	深鉢	B-Y10	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:貼付隆帯キザミ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	表面摩滅
105	019-03	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:貼付隆帯キザミ, ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
106	024-09	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:貼付隆帯キザミ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
107	014-03	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ヨコナデ 外:ナデ	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
108	039-05	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, 刺突 外:沈線, 縄文	やや密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
109	012-07	縄文土器	深鉢	B-V9	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 沈線	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
110	012-05	縄文土器	深鉢	B-V8	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 口縁端部縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR7/4	
111	027-03	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 縄文, 貼付隆帯キザミ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
112	015-04	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや密	-	灰褐 7.5YR5/2	
113	033-04	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ, 沈線 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
114	021-07	縄文土器	深鉢	B-W10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ナデ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	
115	023-08	縄文土器	深鉢	B-W14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
116	024-10	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:条線, ナデ	密	-	にぶい黄褐 10YR4/3	
117	012-04	縄文土器	深鉢	B-V8	包含層	口縁部	-	-	-	内:オサエ, ナデ, ヨコナデ 外:縄文, ミガキ, ナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/4	
118	016-08	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, ミガキ	やや密	-	にぶい橙 5YR6/4	
119	019-07	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	
120	019-04	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
121	034-01	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ヨコナデ, ミガキ	密	-	褐 10YR6/3	
122	028-02	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ミガキ	やや密	-	橙 2.5YR7/6	
123	013-01	縄文土器	深鉢	B-V10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/4	

第5表 出土遺物観察表4

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
124	022-02	縄文土器	深鉢	B-W11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	
125	038-04	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ,ナデ 外:縄文,沈線,ミガキ	やや密	-	灰白 10YR8/1	
126	014-05	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,縄文,沈線	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
127	028-01	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線,ナデ	やや密	-	黒褐 10YR3/1	
128	036-05	縄文土器	深鉢	B-Y11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	密	-	にぶい橙 10YR6/2	
129	036-01	縄文土器	深鉢	B-Y10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,沈線,ミガキ	密	-	褐灰 10YR6/1	
130	034-04	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文,ナデ	密	-	橙 7.5YR4/3	
131	024-06	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線,縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR6/3	
132	027-01	縄文土器	鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ミガキ 外:ナデ,沈線,縄文,ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
133	024-01	縄文土器	鉢	B-W14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ミガキ 外:縄文,ミガキ,沈線	密	-	黒褐 10YR3/2	
134	019-01	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:刺突,ナデ 外:ナデ,沈線,縄文	密	-	橙 7.5YR6/6	
135	040-08	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ケズリ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/6	
136	012-03	縄文土器	深鉢	B-V8	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:条線	密	-	褐 7.5YR4/3	表面摩滅
137	013-02	縄文土器	深鉢	B-V10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR5/3	
138	016-07	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	橙 5YR7/6	
139	018-04	縄文土器	深鉢	B-V15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:条線,ナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
140	033-01	縄文土器	深鉢	B-X12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
141	027-04	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
142	023-07	縄文土器	深鉢	B-W14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線,ミガキ,刺突	やや密	-	灰白 10YR8/2	
143	016-01	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:条線,ナデ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/3	
144	029-04	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:沈線,ミガキ,縄文	密	-	にぶい橙 10YR7/3・6/3	表面摩滅
145	020-05	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
146	014-04	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,縄文,沈線	密	-	灰黄褐 10YR5/2	
147	014-08	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナデ	密	-	褐灰 7.5YR4/1	
148	019-02	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,貼付 隆帯キザミ,沈線,縄文	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
149	025-01	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ,口縁部縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
150	039-06	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,沈線	やや密	-	橙7.5YR7/6 暗灰N3/0	
151	042-06	縄文土器	深鉢	B-V19	包含層	口縁部	-	-	-	内:刺突,ナデ,キザミ 外:縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
152	025-03	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
153	024-04	縄文土器	浅鉢	B-W15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	灰黄褐 10YR5/2	細密条痕
154	043-08	縄文土器	深鉢	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,線刻	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
155	014-07	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3・5/3	
156	037-04	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	表面摩滅
157	013-05	縄文土器	深鉢	B-V11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文,ナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
158	018-07	縄文土器	深鉢	B-V16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ミガキ 外:ヨコナデ,ナデ,ミガキ	密	-	にぶい黄褐 10YR5/4・4/3	
159	033-02	縄文土器	深鉢	B-X12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
160	032-01	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文,口縁部沈線	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3,灰黄褐 10YR4/2	
161	035-07	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	密	-	灰黄褐 10YR5/2	

第6表 出土遺物観察表5

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
162	030-02	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
163	017-01	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	にぶい橙 5YR6/4	
164	038-07	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	灰褐 7.5YR5/2	
165	015-01	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
166	015-02	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	褐灰 7.5YR5/1	
167	041-03	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	浅黄橙 10YR8/3	
168	022-05	縄文土器	深鉢	B-W12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ケズリ	やや密	-	灰N4/0 灰白 10YR8/2	
169	028-03	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
170	014-06	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:縄文	密	-	浅黄橙 7.5YR6/4	表面摩滅
171	015-03	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2 暗灰N3/0	
172	043-06	縄文土器	深鉢	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙 7.5YR7/6	
173	027-06	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデか	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	表面摩滅
174	024-07	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
175	020-03	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
176	035-06	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:不明	密	-	褐灰 5YR7/6	表面摩滅
177	029-08	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
178	021-02	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	やや密	-	にぶい橙 5YR6/4	
179	042-02	縄文土器	深鉢	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR5/2・4/2	
180	026-07	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	表面摩滅
181	036-06	縄文土器	深鉢	B-Y11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	
182	026-06	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
183	030-04	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
184	029-01	縄文土器	深鉢	B-X9	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙 5YR6/4	
185	035-03	縄文土器	鉢	B-X17	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:不明	密	-	明褐 7.5YR5/6	表面摩滅
186	030-05	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:条線, ナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
187	036-07	縄文土器	深鉢	B-Y11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
188	017-02	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 7.5YR4/1	
189	030-01	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:条痕 外:条痕	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
190	025-02	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR5/4	
191	027-05	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	橙 7.5YR7/6	表面摩滅
192	037-03	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ	密	-	灰褐 5YR6/2	
193	037-02	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙 5YR7/4	
194	029-06	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR7/3	
195	029-07	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
196	024-05	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
197	028-06	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや密	-	にぶい黄橙 2.5YR7/6	
198	038-05	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/6	
199	032-07	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	密	-	褐灰 2.5YR5/1・4/1	

第7表 出土遺物観察表6

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
200	040-04	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	橙 2.5YR6/6	
201	043-01	縄文土器	浅鉢	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
202	023-03	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 10YR4/1	
203	028-05	縄文土器	深鉢	B-W17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	灰黄褐 10YR5/2	
204	021-03	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ケズリ, ナデ 外:ケズリ, ナデ	やや密	-	褐灰10YR4/1 , にぶい橙 7.5YR7/4	
205	026-04	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, オサエ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
206	041-05	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
207	024-02	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	黒褐 10YR4/2	
208	026-05	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
209	032-02	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	灰褐 7.5YR4/2	
210	035-01	縄文土器	深鉢	B-X15	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
211	033-06	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ, ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
212	027-02	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 10YR5/1	
213	037-06	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5Y6/3	表面摩滅
214	037-07	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:不明 外:ミガキ	密	-	褐灰 10YR5/1	表面摩滅
215	017-03	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキか	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	表面摩滅
216	030-03	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
217	029-05	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3・5/3	
218	037-05	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	口縁部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
219	035-04	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	口縁部	-	-	-	内:ケズリ 外:ミガキ	密	-	灰黄褐 10YR6/3	
220	033-08	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:刺突	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	半截竹管押引
221	034-06	縄文土器	鉢	B-X14	包含層	脚台部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3・6/3	表面摩滅
222	038-02	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:条線	やや密	-	にぶい橙 5YR7/4	
223	035-02	縄文土器	深鉢	B-X15	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:条線	密	-	灰黄褐 10YR4/2	
224	040-06	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線	やや密	-	灰黄褐 10YR6/2	
225	021-06	弥生土器		B-W9	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, 櫛描文	やや密	-	橙 5YR6/6	
226	015-05	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 沈線	やや密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
227	017-06	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/3	
228	030-07	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ミガキ, 縄文	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
229	019-06	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ミガキ, 縄文	密	-	にぶい橙 5YR7/4	
230	033-07	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線, ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
231	018-08	縄文土器	深鉢	B-V16	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3・6/3	
232	042-03	縄文土器	深鉢	B区	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文, ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
233	017-05	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3	
234	042-04	縄文土器	深鉢	B区	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	赤彩か
235	018-03	縄文土器	深鉢	B-V14・15	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 縄文, 沈線	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
236	043-02	縄文土器	深鉢	B区	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
237	017-07	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	

第8表 出土遺物観察表7

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
238	032-08	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線	密	-	褐灰 7.5YR4/1	
239	040-05	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	やや密	-	橙 5YR7/6	
240	025-04	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 沈線	密	-	明赤褐 10YR4/3・6/3	
241	038-08	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	やや密	-	褐灰 7.5YR4/1 灰黄褐 10YR6/2	
242	012-08	縄文土器	深鉢	B-V9	風倒木	体部	-	-	-	内:ミガキ, ナデ 外:縄文, 沈線	密	-	褐灰 7.5YR4/1	
243	025-05	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 沈線	密	-	明褐 7.5YR5/6	
244	030-06	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	灰褐 7.5YR6/2	
245	037-01	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキか 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	表面摩滅
246	036-04	縄文土器	深鉢	B-Y10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	
247	014-02	縄文土器	深鉢	B-V12	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, ナデ, 沈線	密	-	にぶい橙 7.5YR6/2	
248	028-07	縄文土器	深鉢	B-X9	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	南壁
249	022-04	縄文土器	深鉢	B-W11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	やや密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
250	029-02	縄文土器	深鉢	B-X9	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
251	032-03	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ミガキ, 沈線, 縄文	密	-	灰黄褐 10YR5/2	
252	038-06	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:沈線, 縄文	やや密	-	橙 5YR6/8	半截竹管押引
253	022-07	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	褐灰 7.5YR4/1	
254	017-04	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
255	022-03	縄文土器	深鉢	B-W11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線, ミガキ	やや密	-	橙 5YR6/6	
256	023-04	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 沈線	やや密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
257	025-06	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 沈線, ミガキ	密	-	明赤褐 5YR5/6	
258	014-01	縄文土器	深鉢	B-V12	包含層	体部	-	-	-	内:ナデか 外:縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR6/4	表面摩滅
259	023-05	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
260	015-06	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文, 沈線	やや密	-	橙 5YR7/6	
261	034-05	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文, 沈線	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
262	020-02	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, 縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
263	022-06	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
264	023-06	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	
265	033-03	縄文土器	深鉢	B-X12	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
266	019-05	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線	密	-	にぶい橙 7.5YR7/3	
267	039-04	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:沈線, ナデ, ミガキ	やや密	-	橙 5YR7/6	
268	013-07	縄文土器	深鉢	B-V11	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ, ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい黄橙 10YR5/3	
269	025-07	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	
270	015-08	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
271	013-08	縄文土器	深鉢	B-V11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	
272	015-07	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	
273	016-06	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ, 縄文	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
274	023-01	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	灰褐 7.5YR5/2	
275	037-08	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	

第9表 出土遺物観察表8

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
276	039-02	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	褐灰 10YR5/1	
277	017-08	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	体部	-	-	-	内: 外:縄文	やや密	-	褐灰 10YR5/1	
278	036-03	縄文土器	深鉢	B-Y10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	褐灰 10YR4/1	
279	038-03	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	
280	018-02	縄文土器	深鉢	B-V14・15	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ,ミガキ 外:縄文	密	-	灰褐 7.5YR4/2	
281	030-08	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	黄灰 2.5Y4/1	
282	031-06	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	体部	-	-	-	内:ミガキ 外:縄文	密	-	にぶい黄褐 10YR5/3	
283	023-02	縄文土器	深鉢	B-W13	包含層	体部	-	-	-	内:ナデ 外:縄文	やや密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
284	022-08	縄文土器	鉢	B-W13	包含層	底部 4/12	-	7.0	-	内:ミガキ 外:ミガキ	やや密	-	褐灰 10YR5/8	
285	031-02	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 4/12	-	10.2	-	内:ミガキ 外:ミガキ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
286	020-07	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐	
287	025-08	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい黄褐 10YR6/4	
288	016-02	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	底部 3/12	-	5.6	-	内:ミガキ 外:ナデ,ミガキ,沈線,縄文	やや密	-	灰黄褐 10YR6/2	
289	032-04	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部 3/12	-	9.1	-	内:ケズリ 外:オサエ,ナデ	密	-	褐灰 7.5YR4/1	
290	031-04	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 3/12	-	10.0	-	内:ナデ,オサエ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/2	
291	025-09	縄文土器	深鉢	B-W16	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	にぶい褐 7.5YR8/4	底部剥離
292	034-08	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	底部 2/12	-	7.6	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	褐 7.5YR7/4	
293	018-01	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	底部 4/12	-	10.8	-	内:ナデ 外:オサエ,ミガキ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
294	031-01	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 2/12	-	8.7	-	内:ナデ,オサエ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	
295	032-06	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい赤褐 5YR5/4	
296	032-05	縄文土器	深鉢	B-X11	包含層	底部 2/12	-	8.0	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	
297	018-06	縄文土器	深鉢	B-V16	包含層	底部 2/12	-	9.6	-	内:不明 外:ナデ,ミガキ	密	-	にぶい褐 7.5Y5/3	表面摩滅
298	043-07	縄文土器	深鉢	B区	包含層	底部 2/12	-	7.6	-	内:ミガキ 外:ミガキ,ナデ,オサエ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
299	031-05	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	灰褐 7.5YR5/2	
300	035-05	縄文土器	深鉢	B-X17	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:オサエ,ナデ	密	-	橙 5YR6/6	
301	029-03	縄文土器	深鉢	B-X9	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:オサエ,ナデ	密	-	灰黄褐 10YR5/2	
302	013-06	縄文土器	深鉢	B-V11	包含層	底部 4/12	-	8.0	-	内:ナデ 外:ケズリ,ナデ,オサエ	密	-	灰黄褐 10YR6/2・5/2	
303	038-01	縄文土器	深鉢	B-Y12	包含層	底部 1/12	-	7.4	-	内:ケズリ 外:ナデ,オサエ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/3	
304	034-03	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	底部 3/12	-	8.2	-	内: 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/6	表面摩滅
305	034-07	縄文土器	深鉢	B-X14	包含層	底部 2/12	-	9.8	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
306	042-05	縄文土器	深鉢	B区	包含層	底部 3/12	-	10.6	-	内:ナデ 外:オサエ,ナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
307	016-04	縄文土器	深鉢	B-V14	包含層	底部 3/12	-	5.4	-	内:ナデ 外:ナデ,オサエ,ミガキ	やや粗	-	にぶい黄橙 10YR7/3	
308	042-01	縄文土器	深鉢	B区	包含層	底部 2/12	-	9.4	-	内:ナデ,オサエ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/4	
309	034-02	縄文土器	深鉢	B-X13	包含層	底部 4/12	-	8.8	-	内: 外:ナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/3	表面摩滅
310	024-08	縄文土器	深鉢	B-W15	包含層	底部 5/12	-	9.4	-	内:ナデ,ミガキ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい黄橙 10YR6/4	
311	020-06	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	底部 2/12	-	7.5	-	内:ナデ 外:ミガキ,オサエ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/6	
312	021-01	縄文土器	深鉢	B-V17	包含層	底部 5/12	-	10.8	-	内:ミガキ 外:ナデ,ミガキ,オサエ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/3 褐灰 7.5YR5/1	
313	022-01	縄文土器	深鉢	B-W11	包含層	底部 5/12	-	6.8	-	内:ナデ 外:ナデ,ミガキ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/4	

第10表 出土遺物観察表 9

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
314	040-01	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	11.4	-	内:ナデ 外:ミガキ, ナデ, オサエ	やや密	-	灰黄褐 10YR6/2	
315	040-02	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	9.4	-	内:ミガキ 外:ミガキ, ナデ, オサエ	やや密	-	浅黄橙 7.5YR8/6	
316	041-04	縄文土器	深鉢	B-Y15	包含層	底部 2/12	-	8.0	-	内:ナデ, オサエ 外:ナデ, オサエ	密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
317	040-03	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 1/12	-	7.0	-	内:ナデ 外:ナデ, オサエ	やや密	-	橙 7.5YR7/6	
318	031-03	縄文土器	深鉢	B-X10	包含層	底部 2/12	-	9.8	-	内:ナデ 外:オサエ, ナデ	密	-	にぶい橙 5YR6/4	
319	044-01	縄文土器	深鉢	B-W8	攪乱1	底部 2/12	-	8.8	-	内:ミガキ 外:ナデ, オサエ	やや密	-	にぶい橙 7.5YR7/4	
320	040-07	縄文土器	深鉢	B-Y14	包含層	底部 5/12	-	7.6	-	内:ナデ 外:ナデ, オサエ	やや密	-	浅黄橙 10YR8/3 暗灰N3/0	
321	043-03	縄文土器	深鉢	B区	包含層	底部 1/12	-	10.8	-	内:ミガキ 外:ナデ, オサエ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3	
322	039-03	縄文土器	深鉢	B-Y13	包含層	底部	-	-	-	内:ミガキ 外:ナデ	やや密	-	橙 2.5YR6/6	
323	021-04	縄文土器	深鉢	B-W9	包含層	底部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ, オサエ	やや密	-	橙 5YR6/6	
324	016-03	縄文土器	深鉢	B-V13	包含層	底部 1/12	-	14.6	-	内:ナデ 外:ナデ	やや密	-	橙 5YR7/6	
325	050-01	石器	楔形石器	B-X10	落ち込み		2.30	2.80	0.70	石材:サヌカイト			重:5.75g	風倒木痕跡
326	051-01	石器	削器	B-X11	落ち込み		4.85	3.90	1.45	石材:サヌカイト			重:29.68g	風倒木痕跡
327	049-01	石器	石鏃	B-V11	包含層		1.45	1.50	0.28	石材:サヌカイト			重:0.42g	
328	058-01	石器	石鏃	B-X12	包含層		2.10	1.35	0.30	石材:サヌカイト			重:0.64g	
329	056-01	石器	石鏃	B-V16	包含層		2.4	2.0	0.72	石材:サヌカイト			重:2.05g	
330	048-01	石器	石鏃	B-V10	包含層		2.40	1.75	0.45	石材:サヌカイト			重:1.72g	
331	049-04	石器	石鏃	B-X12	攪乱1		1.20	1.25	0.25	石材:サヌカイト			重:0.32g	
332	049-02	石器	石鏃	B区	排土		2.60	1.30	0.30	石材:サヌカイト			重:1.33g	
333	057-01	石器	石鏃 未製品	B-V12	包含層		2.50	1.20	0.40	石材:サヌカイト			重:0.84g	
334	057-02	石器	UF	B-V17	包含層		3.20	1.38	0.40	石材:サヌカイト			重:1.36g	使用痕有剥片
335	056-02	石器	石鏃	B-W9	包含層		1.80	2.00	0.40	石材:サヌカイト			重:1.20g	
336	057-04	石器	石鏃 未製品	B-X12	包含層		2.30	1.80	0.50	石材:サヌカイト			重:1.38g	
337	057-03	石器	石鏃	B-X11	包含層		2.50	1.90	0.70	石材:サヌカイト			重:2.65g	
338	056-03	石器	RF	B-W9	包含層		1.70	1.12	0.20	石材:サヌカイト			重:0.41g	二次加工痕有剥片
339	048-03	石器	石錐	B-X12	包含層		2.30	1.50	0.60	石材:サヌカイト			重:1.25g	
340	050-03	石器	楔形石器	B-V8	包含層		2.75	1.70	0.90	石材:サヌカイト			重:3.75g	
341	050-02	石器	楔形石器	B-V8	包含層		2.40	2.75	0.80	石材:サヌカイト			重:6.13g	
342	051-02	石器	楔形石器	B-X11	包含層		3.20	2.80	1.00	石材:サヌカイト			重:9.17g	
343	048-02	石器	石核	B-X11	包含層		2.05	3.75	2.25	石材:サヌカイト			重:16.02g	
344	053-02	石器	石核	B-X10	包含層		2.65	2.60	1.60	石材:サヌカイト			重:11.93g	
345	049-03	石器	RF	B-V13	包含層		2.30	4.15	1.20	石材:サヌカイト			重:8.77g	使用痕有剥片
346	052-02	石器	削器	B-W17	包含層		3.80	5.40	1.60	石材:サヌカイト			重:23.06g	
347	054-01	石器	削器	B-V14	包含層		4.65	7.90	1.20	石材:サヌカイト			重:40.50g	
348	052-01	石器	削器	B-W17	包含層		2.85	7.50	0.96	石材:サヌカイト			重:16.08g	
349	053-01	石器	磨製石斧	B-X11	包含層		3.85	3.30	1.25	石材:			重:27.08g	
350	055-01	石器	磨製石斧	B-Y13	包含層		11.0	7.30	3.30	石材:			重:371.05g	
351	047-01	石器	敲石	B-W13	包含層		9.1	11.2	7.3	石材:			重:1250.0g	

第11表 出土遺物観察表10

*石器の法量は、長さ、幅、厚さとなる。

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
352	045-01	石器	敵石	B-W13	包含層		17.8	12.2	9.4	石材:砂岩			重:2800.0g	
353	046-01	石器	台石	B-W13	包含層		14.6	18.8	7.5	石材:砂岩			重:2930.0g	
354	026-02	陶器	皿	B-W16	包含層	口縁部 1/12	8.8	3.4	2.3	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ,ヘラキリ	密	良	灰白 10YR8/2	釉:灰白2.5Y8/2 口縁部炭化物付着
355	041-06	土師器	羽釜	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ 外:ヨコナデ,ナデ	密	-	浅黄橙 7.5YR8/3	
356	043-05	土師器	羽釜	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	-	浅黄橙 10YR8/4	
357	041-07	土師器	鍋	B区	包含層	口縁部	-	-	-	内:ナデ,ヨコナデ 外:ナデ,ヨコナデ	密	-	橙 7.5YR7/6	
358	039-07	土師器	鍋	B-Y14	包含層	口縁部	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや密	-	灰褐 7.5YR4/2	スス付着
359	018-05	弥生土器		B-V16	包含層	底部 2/12	-	8.6	-	内:ナデ 外:オサエ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	
360	035-08	山茶椀	椀	B-X17	包含層	口縁部 2/12	17.4	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	
361	041-08	山茶椀	椀	B区	包含層	底部 1/12	-	5.6	-	内:ナデ,ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白 2.5Y8/1	
362	027-07	山茶椀	椀	B-W17	包含層	底部 5/12	-	6.2	-	内:ロクロナデ 外:オサエ	密	良	灰白 10YR8/1	
363	043-04	山茶椀	椀	B区	包含層	底部 4/12	-	7.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,ナデ,ヘラキリ	密	良	灰白 10YR7/1	
364	041-01	山茶椀	椀	B-Y15	包含層	底部 4/12	-	5.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白 10YR8/1	見込み部分摩耗
365	041-02	山茶椀	椀	B-Y15	包含層	底部 1/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白 10YR7/1	
366	025-10	山茶椀	椀	B-W15	包含層	底部 3/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰黄褐 10YR6/2	高台もみ殻痕あり
367	027-08	山茶椀	椀	B-W17	包含層	底部 5/12	-	6.2	-	内:ロクロナデ 外:オサエ	密	良	灰白 N8/0	高台もみ殻痕あり
368	013-03	山茶椀	椀	B-V11	包含層	底部 3/12	-	7.6	-	内:ロクロナデ,自然釉 外:ロクロナデ,ヨコナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	内面重ね焼き痕跡 見込み部分僅かに 摩耗
369	026-01	陶器	鉢	B-W16	包含層	口縁部 1/12	15.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白 N8/0	釉:灰白7.5Y7/2
370	020-08	陶器	皿	B-V17	包含層	底部 3/12	-	6.8	-	内:施釉,ロクロナデ 外:施釉,ロクロケズリ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	釉:浅黄2.5Y7/3 削出高台
371	026-03	陶器	皿	B-W16	包含層	口縁部 1/12	12.8	9.2	2.1	内:ロクロナデ 外:ロクロケズリ,糸キリ	密	良	灰白 2.5Y8/1	釉:灰白5Y8/1
372	007-06	瓦器	椀	1区 T24	SK21001	底部 2/12	-	6.0	-	内:ミガキ 外:オサエ	密	良	灰N4/0	北東
373	007-03	山茶椀	椀	1区 T24	SK21001	底部 6/12	-	7.5	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白10YR8/1	
374	007-02	山茶椀	椀	1区 T24	SK21001	底部 3/12	-	7.3	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白10YR8/1	
375	007-01	山茶椀	椀	1区 T24	SK21001	底部 6/12	-	7.8	-	内:ナデ,ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白10YR8/1	
376	007-04	山茶椀	椀	1区 T24	SK21001	底部	-	10.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ,高台 粉殻痕	密	良	灰白2.5Y7/1	
377	007-05	山茶椀	椀	1区 T24	SK21001	底部 3/12	-	7.5	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,糸キリ	密	良	灰白10YR8/1	南半
378	008-01	土師器	鍋	1区 S24	SK21004	体部	-	-	-	内:ナデ,オサエ 外:ナデ,オサエ	密	-	にぶい褐 7.5YR5/3・6/3	内外面双付着
379	008-02	弥生土器	壺	1区 Y24	SK21005	口縁部 1/12	16.2	-	-	内:ハケナデ 外:キザミ,ハケナデ	密	-	にぶい橙 5YR6/4	
380	008-03	土師器	壺	2区 AD-X25	SK22001	頸部	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR7/6	
381	008-04	土師器	台付甕	2区 AD-X25	SK22001	口縁部 3/12	15.8	-	-	内:ヨコナデ,ナデ 外:ヨコナデ,ハケナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR7/3・7/4	内外面双付着
382	003-04	土師器	杯	3区	SK23002	口縁部 2/12	10.6	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	釉:灰白2.5Y8/2
383	003-03	瓦器	椀	3区 X3	SD23001	口縁部 1/12 底部6/12	14.1	5.6	5.0	内:ヨコナデ,ミガキ 外:ヨコナデ,オサエ,ミガキ	密	良	暗灰N3/0	
384	003-02	瓦器	椀	3区 X3	SD23001	底部 1/12	6.4	-	-	内:ミガキ 外:ナデ,オサエ,ミガキ	密	良	暗灰N3/0	
385	003-01	瓦器	椀	3区 X3	SD23001	口縁部 1/12	16.0	-	-	内:ミガキ,ヨコナデ 外:ヨコナデ,オサエ,ミガキ	密	良	灰N4/0	
386	002-08	山茶椀	椀	3区 X3	SD23001	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	
387	002-07	山茶椀	椀	3区 X3	SD23001	口縁部 1/12	15.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白N8/0	
388	002-06	山茶椀	椀	3区 X3	SD23001	口縁部 1/12	18.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密	良	灰白N7/0	内面自然釉付着
389	002-05	山皿	皿	3区 X3	SD23001	口縁部 4/12	8.3	3.3	2.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,高台粉殻痕	密	良	灰白N8/0	内外面自然釉付着

第12表 出土遺物観察表11

NO	実測番号	種類(産地・系統)	器種	調査区	遺構層位	部位残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 施釉	胎土	焼成	色調	特記事項
							口径	底径	器高					
390	002-03	ロクロ土師器	皿	3区 X3	SD23001	底部 4/12	-	7.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	やや密	-	褐灰7.5YR4/1	
391	002-04	ロクロ土師器	皿	3区 X3	SD23001	口縁部 2/12	10.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密	-	橙2.5YR6/8	
392	002-02	土師器	皿	3区 X3	SD23001	口縁部 2/12	13.4	-	2.9	内:ナデ,ヨコナデ 外:ヘラケズリ	やや密	-	灰褐7.5YR4/2	
393	002-01	土師器	鍋	3区 X3	SD23001	口縁部 3/12	21.9	-	-	内:ナデ,ハケナデ 外:ヨコナデ,ハケナデ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/3, 灰褐7.5YR4/2	
394	003-08	瓦器	椀	3区 X3	Pit2	小片	-	-	-	内:ミガキ 外:	密	良	暗灰N3/0	
395	003-05	山茶椀	椀	3区 X3	Pit2	底部 2/12	-	8.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ,高台 粉殻痕	やや密	良	灰白N8/0	
396	003-07	ロクロ土師器	小皿	3区 X3	Pit2	口縁部1/ 12	8.4	5.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	やや密	-	にぶい橙5YR6/4	
397	003-06	土師器	皿	3区 X3	Pit2	口縁部 4/12	9.8	-	1.7	内:ナデ,ヨコナデ 外:ナデ,ヨコナデ	やや密	-	浅黄橙7.5YR8/3	
398	006-01	山茶椀	椀	4区 T4	SE24001	底部 6/12	-	8.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	良	灰白7.5Y7/1	内側
399	001-01	鉄滓		4区 T4	SE24001		7.5	6.7	2.0					内側
400	006-05	土師器	皿	4区 T4	SE24001	口縁部 2/12	7.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	外側
401	006-04	山皿	皿	4区 T4	SE24001	口縁部 3/12	9.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	外側
402	006-07	瓦器	椀	4区	SE24001	底部 5/12	-	6.0	-	内:ミガキ 外:ナデ	密	良	暗灰N3/0	
403	006-02	山茶椀	椀	4区 T3	SE24001	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	下層
404	006-03	山茶椀	椀	4区 T4	SE24001	口縁部 2/12	15.9	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	外側
405	006-06	土師器	鍋	4区 T4	SE24001	口縁部 1/12	18.2	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	外側 スス付着
406	004-03	山茶椀	椀	4区	SE24001	口縁部 1/12	16.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	
407	004-02	山茶椀	椀	4区	SE24001	口縁部 1/12	14.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白2.5Y7/1	
408	004-05	山皿	皿	4区	SE24001	底部 3/12	-	4.0	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰黄2.5Y7/2	
409	004-04	山茶椀	椀	4区	SE24001	底部 4/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,ナデ,高台 粉殻痕	密	良	灰白2.5Y7/1	
410	004-01	山茶椀	椀	4区	SE24001	底部 6/12	-	8.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	良	灰白5Y7/1	見込み部分摩耗、 内面自然釉付着
411	005-03	土師器	皿	4区	SE24001	口縁部 2/12	7.0	-	1.7	内:ナデ 外:ナデ	密	-	橙5YR6/6	表面摩滅
412	004-06	ロクロ土師器	皿	4区	SE24001	口縁部 1/12	8.4	4.9	4.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	
413	004-07	ロクロ土師器	皿	4区	SE24001	底部 3/12	-	3.8	-	内:ナデ,ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	にぶい褐 7.5YR7/4	
414	005-02	ロクロ土師器	皿	4区	SE24001	口縁部 2/12	9.6	6.0	1.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	橙7.5YR6/6	
415	005-01	ロクロ土師器	皿	4区	SE24001	口縁部 4/12	9.4	5.2	1.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	橙7.5YR5/6	
416	005-04	ロクロ土師器	皿	4区 T3	SE24001	口縁部 3/12	8.8	5.6	1.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	にぶい橙 7.5YR6/4	下層
417	005-05	ロクロ土師器	皿	4区 T3	SE24001	底部 4/12	-	-	5.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	-	にぶい黄橙 10YR7/3	下層
418	008-05	灰釉陶器	皿	5区	SK25001	底部 3/12	-	4.0	-	内:ロクロナデ 外:削り出し高台	密	良	灰白2.5Y8/1	釉) 灰白7.5Y7/1
419	009-03	土師器	鍋	2区 T24	包含層	小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	やや密	-	にぶい褐 7.5YR6/3	黒色粘土
420	009-04	磁器		2区 A25	暗渠	小片	-	-	-	内: 外:	密	良	灰白N8/0	釉) 灰白N8/0 型 紙染付
421	009-05	瓦器	椀	2区 R25	包含層	小片	-	-	-	内:ミガキ,ナデ 外:ナデ,オサエ	密	良	暗灰N3/0	
422	009-02	須恵器	杯	2区	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,ロクロケズリ	密	良	灰白N8/0	杯H
423	009-06	須恵器	杯	2区 W25	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰N6/0	杯H
424	009-01	陶器	壺	2区	表土等	底部 3/12	-	6.6	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰白10YR7/1	釉) 暗赤褐5YR3/3
425	009-09	須恵器	杯	3区 L3	包含層	小片	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	灰N6/0	杯H
426	009-07	山茶椀	椀	3区	表土等	底部 7/12	-	7.2	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	良	灰白N8/0	見込部分摩耗、内 面自然釉付
427	009-08	山茶椀	椀	3区	表土等	底部 3/12	-	6.8	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ,系キリ	密	良	灰白N8/0	見込部分摩耗、内 面自然釉付

第13表 出土遺物観察表12

IV 自然科学分析

1 岡遺跡の放射性炭素年代測定

(1) はじめに

岡遺跡(津市白山町二本木所在)は、雲出川の支流大村川左岸の段丘上に立地する。発掘調査の結果、縄文時代中期末から後晩期と思われる土器や石器、サヌカイト片などの遺物が出土している。

本分析調査では、出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施し、遺構等の年代に関する資料を作成する。

(2) 試料

分析用試料は、第14表に示す炭化物10点である。なお、試料がスギなど長命な樹種であった場合、樹心部分では伐採年代よりも年代値が極端に古くなる可能性がある(古木効果)。このため、考察時の参考資料として、年代測定用の試料調整の際、実体顕微鏡下においてわかる範囲で、樹種同定を実施している(第14表参照)。

(3) 分析方法

試料は、土壌毎取り上げられているため、写真撮影後、周りの土壌を削り落として炭化物のみを取り出し、50mg程度に調整する(ただし、No. 10を除く)。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。一部の試料は化学的に脆弱で、通常の処理では炭素の損耗が大きく、測定不能になる可能性があった。そのため、アルカ

リの濃度を薄くして対応した。No. 10は試料が約3mgと少なく、かつ代替試料が存在しなかったため、AAA処理を行わなかった。試料ごとの分析方法に関しては、結果表にまとめて記す。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cube とIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4(Bronk, 2009)、較正曲線はIntCal20(Reimer et al., 2020)である。

(4) 結果・考察

結果を第15表、第28図に示す。No. 3、No. 8、No. 9の3点はアルカリの濃度を薄くし、No. 10はAAA処理を行わなかった。

その結果、測定に必要なグラファイト量が得られた。同位体補正を行った値は、No. 1(SK10004)が3535±25BP、No. 2(SK10004)が3675±25BP、No. 3(SK10005)が2250±25BP、No. 4(SK10005)が3880±25BP、No. 5(33層)が3185±25BP、No. 6(18層)が3640±25BP、No. 7(17層)が3325±25BP、No. 8(風倒木B)が3265±25BP、No. 9(風倒木A)が3200

No.	取上 No.	地区	遺構名等	備考
1	⑩	B-V14.15	SK10004	炭化材(散孔材)
2	⑪	B-V14.15	SK10004	炭化材(アカガシ亜属)
3	⑧	B-V10	SK10005	炭化材(散孔材)
4	⑨	B-V10	SK10005	炭化材(アカガシ亜属)
5	⑥	B-V13	土壌化層(33層)	炭化材(ケヤキ)
6	⑬	B-V14.15	ベース(18層)	炭化材(ケヤキ)
7	⑭	B-V13	17層	炭化材(ケヤキ)
8	⑮	B-V13	風倒木B	炭化材(ケヤキ)
9	⑯	B-V13	風倒木A	炭化材(ケヤキ)
10	⑰	B-V12	19層	不明(微量)

第14表 分析試料一覧結果 *第4図参照

±25BP、No. 10 (19層) が3600±25BPである。暦年較正は、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、その後訂正された半減期 (¹⁴Cの半減期5730±40年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、IntCal20 (Reimer et al., 2020)を用いる。2σの値は、No. 1 (SK10004) が3895~3717calBP、No. 2 (SK10004) が4090~3910calBP、No. 3 (SK10005) が2339~2156calBP、No. 4 (SK10005)

が4413~4188calBP、No. 5 (33層) が3451~3369calBP、No. 6 (18層) が4082~3880calBP、No. 7 (17層) が3626~3463calBP、No. 8 (風倒木B) が3561~3404calBP、No. 9 (風倒木A) が3456~3374calBP、No. 10 (19層) が3977~3837calBPである。

暦年代 (calBP) みると、3500年前後 (No. 5 (33層)、No. 7 (17層)、No. 8 (風倒木B)、No. 9 (風倒木A)) と4000年前後 (No. 1 (SK10004)、No. 2 (SK10004)、No. 4 (SK10005)、No. 6 (18層)、No. 10 (19層)) に値が収束しているようにみえる。No. 3 (SK10005)

No.	性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ ¹³ C (‰)	暦年較正年代								Code No.		
					年代値										確率%
1	炭化材 散孔材	AAA (1M)	3535±25 (3533±25)	-24.55 ±0.60	σ	cal BC 1921	-	cal BC 1909	3870	-	3858	calBP	7.3	YU- 15075	pal- 13901
						cal BC 1904	-	cal BC 1875	3853	-	3824	calBP	24.5		
						cal BC 1844	-	cal BC 1820	3793	-	3769	calBP	20.8		
						cal BC 1798	-	cal BC 1778	3747	-	3727	calBP	15.8		
2	炭化材 アカガシ 亜属	AAA (1M)	3675±25 (3675±24)	-24.48 ±0.55	σ	cal BC 1946	-	cal BC 1864	3895	-	3813	calBP	44.9	YU- 15076	pal- 13902
						cal BC 1855	-	cal BC 1768	3804	-	3717	calBP	50.6		
						cal BC 2132	-	cal BC 2086	4081	-	4035	calBP	42.0		
						cal BC 2051	-	cal BC 2025	4000	-	3974	calBP	21.0		
3	炭化材 散孔材	AaA (0.1M)	2250±25 (2249±24)	-31.55 ±0.57	σ	cal BC 383	-	cal BC 355	2332	-	2304	calBP	25.4	YU- 15077	pal- 13903
						cal BC 281	-	cal BC 231	2230	-	2180	calBP	42.9		
						cal BC 390	-	cal BC 349	2339	-	2298	calBP	30.9		
						cal BC 311	-	cal BC 207	2260	-	2156	calBP	64.5		
4	炭化材 アカガシ 亜属	AAA (1M)	3880±25 (3881±25)	-29.91 ±0.58	σ	cal BC 2454	-	cal BC 2418	4403	-	4367	calBP	21.0	YU- 15078	pal- 13904
						cal BC 2409	-	cal BC 2371	4358	-	4320	calBP	22.2		
						cal BC 2359	-	cal BC 2338	4308	-	4287	calBP	11.9		
						cal BC 2324	-	cal BC 2301	4273	-	4250	calBP	13.1		
5	炭化材 ケヤキ	AAA (1M)	3185±25 (3187±25)	-33.55 ±0.66	σ	cal BC 1497	-	cal BC 1473	3446	-	3422	calBP	31.7	YU- 15079	pal- 13905
						cal BC 1461	-	cal BC 1432	3410	-	3381	calBP	36.6		
						cal BC 1502	-	cal BC 1420	3451	-	3369	calBP	95.4		
						cal BC 2035	-	cal BC 1953	3984	-	3902	calBP	68.3		
6	炭化材 ケヤキ	AAA (1M)	3640±25 (3641±25)	-29.71 ±0.65	σ	cal BC 2133	-	cal BC 2085	4082	-	4034	calBP	16.5	YU- 15080	pal- 13906
						cal BC 2051	-	cal BC 1931	4000	-	3880	calBP	79.0		
						cal BC 1617	-	cal BC 1599	3566	-	3548	calBP	18.0		
						cal BC 1592	-	cal BC 1542	3541	-	3491	calBP	50.3		
7	炭化材 ケヤキ	AAA (1M)	3325±25 (3323±26)	-30.61 ±0.68	σ	cal BC 1677	-	cal BC 1654	3626	-	3603	calBP	3.9	YU- 15081	pal- 13907
						cal BC 1641	-	cal BC 1514	3590	-	3463	calBP	91.6		
						cal BC 1601	-	cal BC 1585	3550	-	3534	calBP	8.9		
						cal BC 1544	-	cal BC 1498	3493	-	3447	calBP	59.4		
8	炭化材 ケヤキ	AaA (0.1M)	3265±25 (3264±26)	-31.94 ±0.55	σ	cal BC 1612	-	cal BC 1572	3561	-	3521	calBP	17.9	YU- 15082	pal- 13908
						cal BC 1567	-	cal BC 1495	3516	-	3444	calBP	69.3		
						cal BC 1478	-	cal BC 1455	3427	-	3404	calBP	8.2		
						cal BC 1499	-	cal BC 1447	3448	-	3396	calBP	68.3		
9	炭化材 ケヤキ	AaA (0.05M)	3200±25 (3202±25)	-30.46 ±0.50	σ	cal BC 1507	-	cal BC 1425	3456	-	3374	calBP	95.4	YU- 15083	pal- 13909
						cal BC 2016	-	cal BC 1999	3965	-	3948	calBP	13.4		
						cal BC 1978	-	cal BC 1920	3927	-	3869	calBP	49.1		
						cal BC 1911	-	cal BC 1902	3860	-	3851	calBP	5.7		
10	炭化材? 微量	無処理	3600±25 (3598±26)	-26.93 ±0.64	σ	cal BC 2028	-	cal BC 1888	3977	-	3837	calBP	95.4	YU- 15084	pal- 13910

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理、AaAはアルカリの濃度を下げたことを示す。
- 5) 暦年の計算には、OxCal v4.4を使用
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正データセットは、IntCal20を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 9) 統計的に真の値が入る確率は、σが68.2%、2σが95.4%である。

第15表 放射性炭素年代測定結果

のみ2300年前後と極端に新しい年代を示す。試料の性状と分析値との関係を見ると、同一樹種（アカガシ亜属、ケヤキ）の年代値が揃っているように見える。今回は全体的に炭化物の量が少なく、同一個体

から電子顕微鏡観察用試料と年代測定用試料を取り分けることは難しかったが、今後は樹種と年代値の関係をみていくことが必要と思われる。

(パリノ・サーヴェイ株式会社)

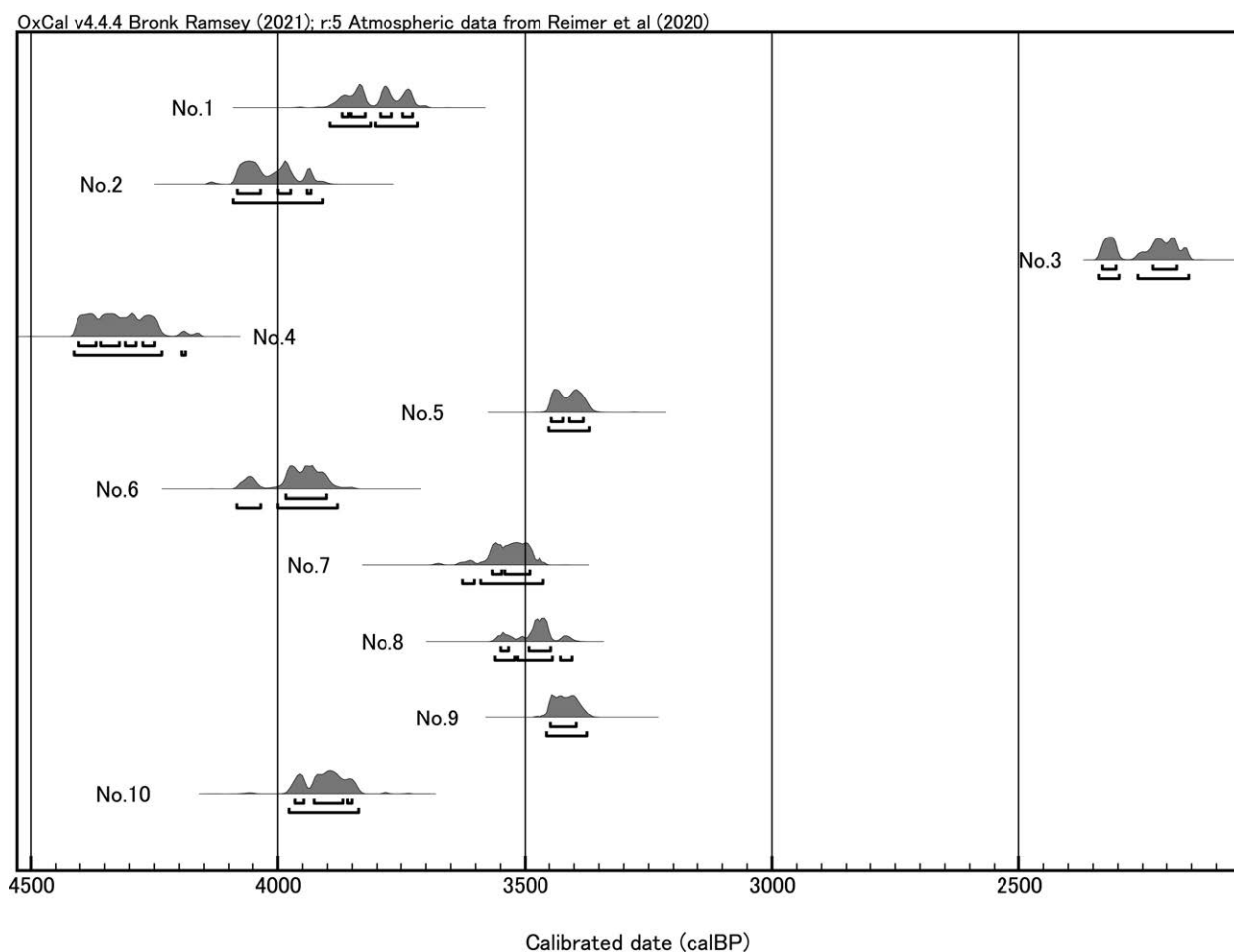
引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.

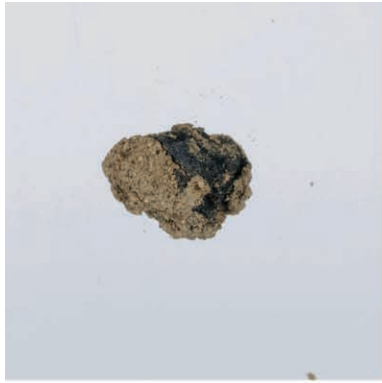
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen

U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62, 1-33.

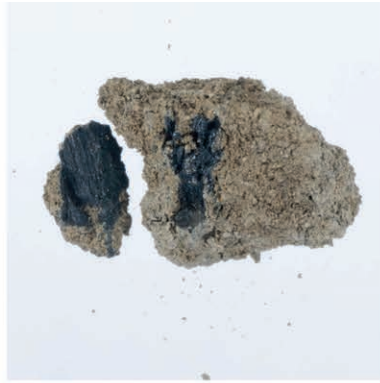
Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363



第28図 暦年較正結果



No. 1



No. 2



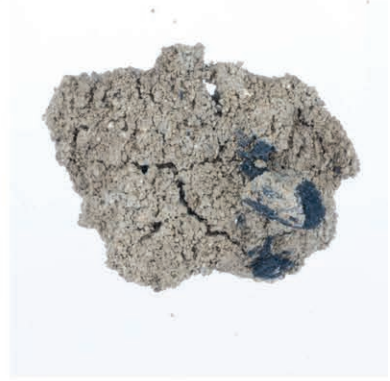
No. 3



No. 4



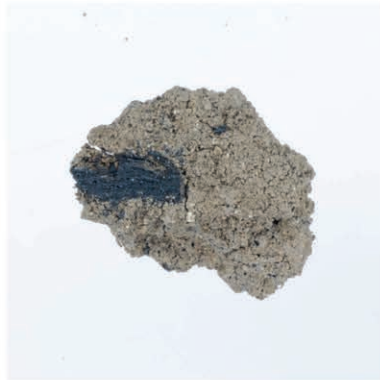
No. 5



No. 6



No. 7



No. 8



No. 9



No. 10

5mm

第29図 分析試料

V まとめ

1 遺構

第1・2次調査によって、大村川周辺における人間活動の状況の一端を明らかにすることができた。

第1次調査では建物跡などの集落の痕跡は確認できなかったものの、焼土痕跡や土器投棄をしたとみられる土坑が見つかった。このことから、縄文時代の岡遺跡周辺で人々が何らかの活動を行っていたことを示唆するものである。また、谷状の落ち込みに堆積した層には多量の縄文土器が包含されていたこと、第2次調査の大村川から少し離れた段丘上では縄文土器がほぼ出土しなかったことを合わせて考えると、縄文時代の人々の生活の中心地は、調査地よりもさらに上流域であったと判断できよう。

第2次調査では、大村川が形成した段丘上の状況を確認することができた。3区では平安時代末ごろの遺物を含む層に覆われた柱穴を多量に検出した。このことから、段丘上では遅くとも平安時代末以降には人々が活動を始めていたと判断できる。この時期の段丘上では柱穴が多数見つかったことからみて、中世には複数時期にわたって人々が大村川沿いで活動していたことが窺える。柱穴に関しては建物として並ぶものはないものの、柱列として把握できるものがある。いずれも柱の規模は径0.3m程度と比較的小規模ではあるが、調査区外に広がる可能性があり、掘立柱建物となる可能性をここでは指摘しておきたい。

また、初瀬街道に近接する4区では柱列と井戸が見つかった。柱列の時期は出土遺物が少量のため不明だが、井戸については平安時代末から鎌倉時代初頭にかけてのものである。井戸からの出土品には、三重県内では伊賀周辺で確認される瓦器碗が出土している。調査地が伊賀や畿内に比較的近いことや、畿内と伊勢地域を結ぶ街道沿いであったことから、瓦器碗がここまで流通していたことが考えられる。これにより、中世における初瀬街道沿いの生活痕跡についても確認することができ、初瀬街道が最盛期を迎える近世以前の二本木宿周辺の様相について、その一端を知ることができた。

2 遺物

第1次調査の遺構や包含層から多量に出土した縄文土器はいずれも縄文時代中期から後期にかけてのものである。いずれも小片であることから、破損したなどの理由で投棄したものであろうか。また、谷状の落ち込みに堆積した層から出土した縄文土器や石器についても同様であろう。このことから、調査地では縄文時代に人々が集住していたと考えるよりも、投棄場所あるいは活動拠点の縁辺部とみるほうが良いだろう。

第2次調査においては、縄文時代から弥生時代にかけての遺物はほぼ出土しない状況であった。段丘上で活動していた平安時代末以降の人々の土地開発によって削平された可能性もあるが、今回の調査でそれを判断することはできなかった。

段丘上からは、平安時代末から鎌倉時代初頭ごろの土器が出土している。なかでも特筆されるのは、前述した井戸S E 24001出土の瓦器碗である。本来、この時期の瓦器は畿内から伊賀地域を中心に分布するものであり、伊勢地域での出土は多くない。4区は特に初瀬街道に隣接していることから見て、畿内地域から流通してきたものが井戸に投棄あるいは埋納されたと考えても良いかもしれない。いずれにせよ、中世期の初瀬街道沿いの人々の生活や往来があったことを示すものであろう⁽¹⁾。

3 結語

2回にわたる調査の結果、大村川沿いに縄文時代の遺物が集中していること、段丘上には平安時代末以降の遺構や遺物が広がっていることが明らかとなった。また、いずれの調査でも風倒木痕跡を複数カ所で検出したことからみて、調査地は人々の定住以前には樹木の生えた浅い谷状の地形が広がっていたものと考えられる。このことは、当地が現在のような田園風景となる前の大村川周辺の様相についてその一端ではあるものの、明らかにすることができたといえよう。

(土橋)

註

(1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。

縄文土器・石器：三重県埋蔵文化財センター『新徳寺遺跡』1997年／小濱学「東海地方における福田K2式期土器群の様相」『立命館大学考古学論集III-1』立命館大学考古学論集刊行委員会 2003年／小濱学「高瀬B遺跡 2 縄文時代中・後期土器」『研究紀要 第11号』2002年 三重県埋蔵文化財センター／山崎真治「縁帯文土器の編年的研究」『東京大学考古学研究室研究紀要18』東京大学考古学研究室 2003年／加納実「堀之内式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／石田由紀子「中津式・福田K II 式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／千葉豊「縁帯文土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／岡田憲一「凹線文系土器(宮滝式土器・元住吉山 II 式土器)」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／富井眞「北白川C式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年／額瀨茂・高橋健太郎「中富式・神明式土器」『総覧 縄文土器』、『総覧 縄文土器』刊行委員会、2008年
弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000年／愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990年
古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告 I』2001年

須恵器：奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告V』2017年
灰釉陶器：橋崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』III、愛知県教育委員会、1983年
中世土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年／伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋貫II』三重県埋蔵文化財センター、2000年
山茶椀：藤澤良佑「山茶椀研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良佑「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、2002年／「施釉陶器生産技術の伝播」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年／「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年
常滑：中野晴久「渥美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』（発表要旨集）2005年
貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社／續伸一郎「中世後期の貿易陶磁器」（同上）
瓦：山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所、2000年／『近世瓦の研究』奈良文化財研究所、2008年



第 1 次調査調査前状況(西から)



第 1 次調査調査前状況(東から)



第1次調査調査区全景(西から)



第1次調査調査区全景(北東から)



第 1 次調査下層確認状況 (南から)

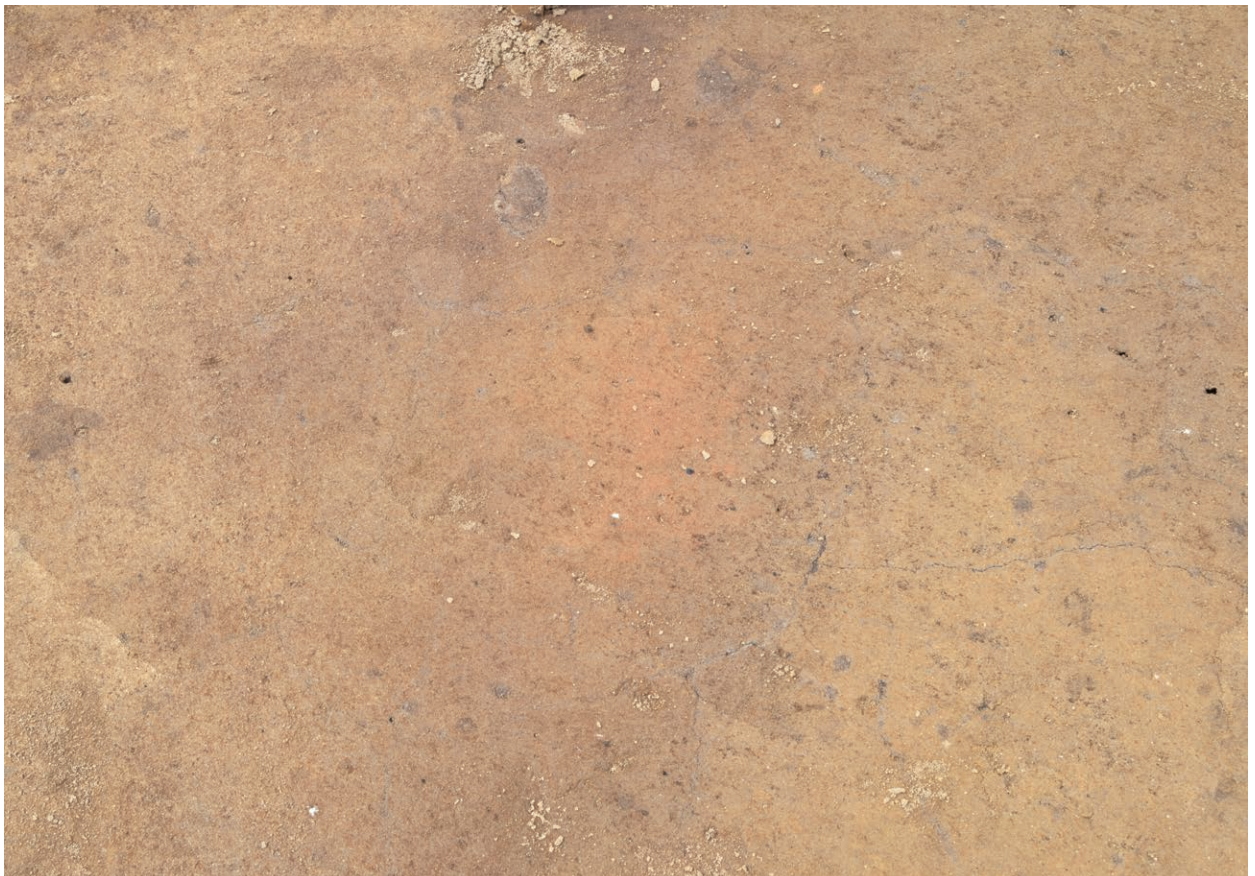


第 1 次調査下層確認状況 (南から)

写真図版 4



第 1 次調査SK10001 (南から)



第 1 次調査SF10002 (南から)



第 1 次調査SK10003 (北から)



第 1 次調査SK10004検出状況 (南から)



第 1 次調査SK10004調査状況(南東から)



第 1 次調査SK10005検出状況(南から)



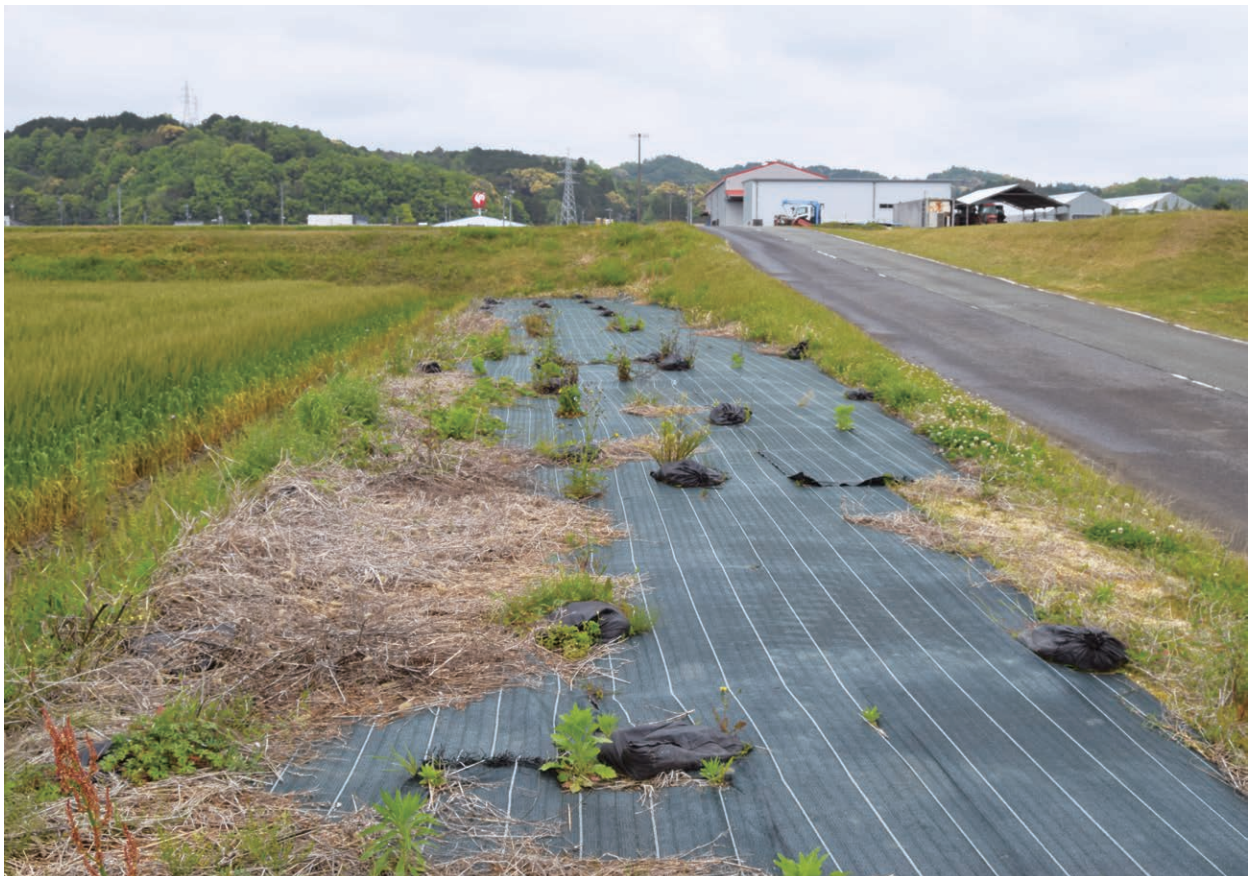
第1次調査SK10005完掘状況(南から)



第2次調査1区調査前状況(南から)



第2次調査2区調査前状況(南から)



第2次調査3区調査前状況(南から)



第2次調査1区調査区全景(南東から)



第2次調査2区調査区全景(北から)



第2次調査3区調査区全景(北から)



第2次調査4区調査区全景(北から)



第2次調査4区調査区全景(南から)



第2次調査5区調査区全景(南から)



第2次調査1区SA21006(北から)



第2次調査3区SD23001調査状況(東から)



第2次調査3区調査区南掘削状況(南から)



第2次調査3区SD23001遺物出土状況(南から)



第2次調査4区SE24001(西から)



第2次調査5区SK25001(北から)



1



2



11



4



5



12



13



22



25



29



36



39



40



43



44



45



52



55



56



59



61



62



63



64



65



67



66



68



69



70



72



73



74

出土遺物 2

写真図版16



79



80



82



83



86



94



93外



93内



98



96外



96内



99



100



101



102



107



109



111

出土遺物 3



113



114



115



116



117



120



121



123



125



126



128



129



130



131



132



136



138



139

出土遺物 4



134外



134内



140



141



143



144



145



146



147



148



149



155



160



162



165



172



174



175



150



153



154



163



178



179



180



181



182



185



187



188



189

出土遺物 6



190



192



193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



215



217



219



220



225



227



230



232



233



235



236



237



239



240



241



245



246



247

出土遺物 8



251



252



264



265



266



274



275



281



282



283



284



285



290



302



305



310



312



313



316



319



326



327



328



329



330



332



336



334表



334裏



339



341



342



343



344



345



346

出土遺物10

写真図版24



347



348



354



355



360



363



369



370



371



349



350



353



375

出土遺物11



378



379



381



382



383



388



389



393



397



399



404



405



415



415底



424

出土遺物12

報告書抄録

ふりがな	おかいせき (だいいち・にじ) はつくつちようさほうこく							
書名	岡遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	418							
編著者名	土橋明梨紗・萩原義彦・原田恵理子							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515 - 0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel0596 - 52 - 1732							
発行年月日	2024年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おかいせき 岡遺跡	みえけんつし 三重県津市 はくさんちようにほんぎ 白山町二本木	24201	i 33	34度 39分 39秒	136度 21分 40秒	2020/4/24 ～ 2020/8/11 2021/6/11 ～ 2021/11/26	815㎡ 1515㎡	道路改良事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
岡遺跡	集落跡	縄文時代・ 鎌倉時代～ 近世	柱列・土坑・溝・ 井戸	縄文土器・石器・土師器・ 須恵器・陶器・鉄滓				
要旨	遺跡は雲出川支流である大村川左岸の段丘上に広がっている。道路改良事業に先立ち発掘調査を行った。遺構については、縄文時代・平安時代～室町時代の遺構（柱列、土坑、溝、井戸）や谷状の落ち込みを確認し、大村川周辺の旧地形を把握することができた。遺物は、縄文時代中期から後期の縄文土器や石器、中世以降の土師器鍋・皿、陶器、鉄滓が出土した。鉄滓の出土は、周辺での鍛冶活動が想定できる。							

三重県埋蔵文化財調査報告 418

岡遺跡(第1・2次)発掘調査報告 ～津市白山町二本木～

2024(令和6)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 共立印刷株式会社

